

令和4年度

事業報告書

令和5年5月26日

学校法人 日本歯科大学

学校法人日本歯科大学 令和4年度事業報告書

目 次

I. 法人	1
II. 生命歯学部	5
III. 生命歯学研究科	43
IV. 新潟生命歯学部	45
V. 新潟生命歯学研究科	69
VI. 東京短期大学	71
VII. 新潟短期大学	76

学校法人日本歯科大学 令和4年度事業報告書

I. 法人

1. 財務

事業活動収支計算書における教育活動収入計は102億7,881万円、教育活動支出計は114億7,029万円、教育活動収支差額は11億9,148万円の支出超過となった。教育活動外収入計は15億4,831万円、教育活動外支出計は736万円、教育活動外収支差額は15億4,095万円の収入超過となり、教育活動収支差額と教育活動外収支差額を合計した経常収支差額は3億4,947万円の収入超過となった。特別収入計は3,489万円、特別支出計は2億6,229万円、特別収支差額は2億2,740万円の支出超過となった。基本金組入前当年度収支差額は1億2,208万円の収入超過となり、基本金組入額合計23億8,361万円を差引いた当年度収支差額は22億6,153万円の支出超過となった。

資金収支計算書における前年度繰越支払資金は47億9,476万円、翌年度繰越支払資金は59億2,401万円となった。

第2号基本金計画による報告は以下のとおりである。

[生命歯学部本館設備改修更新工事 総額27億7,704万円（令和2（2020）年度～令和4（2022）年度）]が完了した。

[東京短期大学新築工事 15億円（令和5（2023）年度～令和6（2024）年度）]は、令和3（2021）年度に8億円、令和4（2022）年度に7億円を繰入した。

[附属病院電子カルテシステム更新3億円]、[新潟生命歯学部耐震補強工事6億7,750万円]（令和5（2023）年度～令和6（2024）年度）について9億7,750万円を繰入した。令和4（2022）年度末の第2号基本金引当資産の残高は24億7,750万円となった。

貸借対照表において、資産の部合計は886億4,588万円、負債の部合計は68億3,539万円、純資産の部合計は818億1,049万円（基本金816億9,693万円、翌年度繰越収支差額1億1,356万円）となった。

2. 理事・監事・評議員の選任

令和4（2022）年9月、理事、監事、評議員の任期満了に伴う選任を行い、その結果を文部科学省に届け出た。

寄附行為第6条第1項第一号理事	藤井一維
寄附行為第6条第1項第二号理事	中原貴
寄附行為第6条第1項第三号理事	中原泉
同	小林隆太郎
寄附行為第6条第1項第四号理事	蓮見壽伯

監 事 高 橋 賢 一
同 加 藤 暢 一

寄附行為第 22 条第 1 項第一号評議員

藤 井 一 維
菊 池 憲一郎
内 川 喜 盛
小 林 隆太郎
中 原 賢
小松崎 明
若 槻 紀 寿

寄附行為第 22 条第 1 項第二号評議員

中 原 泉
近 藤 勝 洪
橋 本 博 之

寄附行為第 22 条第 1 項第三号評議員

富 田 武 夫

3. 学長等の選任

日本歯科大学副学長を選任し、2人体制とした。(令和5年4月1日付)
日本歯科大学東京短期大学学長を再任した。(令和5年4月1日付)
日本歯科大学新潟短期大学学長を再任した。(令和5年4月1日付)

4. 学則の改正

日本歯科大学学則の改正(成績評価基準及びカリキュラムの変更)
東京短期大学学則の改正(専攻科の廃止等)
新潟短期大学学則の改正(授業単位とカリキュラムの変更)

5. 規程の改正

日本歯科大学附属病院規程の改正(組織再編等)
日本歯科大学新潟病院規程の改正(新潟病院・医科病院統合関連)

6. その他

(1) 入学定員の確保対策としての広報

両生命歯学部、両短期大学において優秀な入学者数の安定確保のために、法人として両生命歯学部、両短期大学の統一化した広報の実現に向けた体制整備を進めてきた。その結果、両生命歯学部の広報担当者を中心に両短期大学も含めた体制が整った。

(2) 働き方改革・COVID-19 への対応

働き方改革関連法に就業管理のシステムとして対応するため、人事部の就業管理システムの更新費用を予算計上した。引き続き各部署との連携を強化、協議しながら、労務管理において遺漏の無いよう対応を進める。

COVID-19 に罹患した教職員への公休付与等柔軟に対応するとともに、厚生労働省の「新型コロナウイルス感染症による小学校休業等対応助成金」について積極的に対応した。

(3) 事務業務の電子化推進とネットワーク化

前述の働き方改革への対応にて述べたとおり、人事部の就業管理システムの更新の予算化を行った。本システムは生命歯学部と東京短期大学で先行して使用するが、将来的には新潟生命歯学部、新潟短期大学も共用する予定で進めている。

(4) 情報セキュリティの強化

令和 4 (2022) 年 1 月に発生した附属病院電子カルテのウイルス感染事故以降、改めて事故発生時の対応やセキュリティ対策を再検討し実施した。今後は基本的な対策、対応について現場への教育を継続的に行っていく。

(5) ホームページの再整備 (情報公開の充実)

法人、生命歯学部、東京短期大学のホームページの再整備として、令和 4 (2022) 年度はホームページ委員会を設置し、各業者によるプレゼンを実施、業者選定等を行った。令和 5 (2023) 年度はサーバーの入れ替えとホームページリニューアルに着手する。

(6) 規程集の整備

令和 2 (2020) 年度から開始した規程集の整備について、令和 4 (2022) 年度は 126 に及ぶ規程の新規制定及び改廃を行い、特に改正規程では公用文のルールに沿った整備を併せて行った。

(7) 監事監査

令和 4 (2022) 年度は、監事の協力により監事監査を 4 回実施した (令和 3 年度決算前監査及び公的研究費監査・令和 4 年度予算執行状況と収支に関する中間監査・新潟生命歯学部監査・令和 5 年度予算案監査)。

7. 日本歯科大学学生募集

令和5(2023)年4月の日本歯科大学の確定入学者数は、生命歯学部129人、新潟生命歯学部46人となった。

試験別学部志願者数および合格者数は次のとおりである。

学部	試験区分	募集人数	志願者数	受験者数	合格者数	
生命歯学部	学校推薦型選抜	約40	66(41)	66(41)	64(41)	
	大学入学 共通テスト利用 (前期)	約20	115(52)	106(49)	28(14)	
	大学入学 共通テスト利用 (後期)	約5	13(8)	12(7)	2(2)	
	一般前期	約53	267(122)	256(116)	128(58)	
	一般後期	約10	68(33)	64(30)	15(8)	入学者数
	計	128	529(256)	504(243)	237(123)	129(71)
新潟生命歯学部	総合型選抜Ⅰ期	約16	14(8)	14(8)	12(8)	
	総合型選抜Ⅱ期		3(0)	3(0)	2(0)	
	学校推薦型選抜	約10	9(3)	9(3)	9(3)	
	大学入学 共通テスト利用 (前期)	約10	56(27)	52(25)	15(8)	
	大学入学 共通テスト利用 (後期)	若干名	4(1)	4(1)	1(0)	
	一般前期	約30	130(58)	126(55)	99(43)	
	一般後期	若干名	23(10)	20(8)	15(6)	入学者数
	計	70	239(107)	228(100)	153(68)	46(22)

() 内は女子

II. 生命歯学部

1. 学部の概要

(令和4年5月1日現在)

学校名	学部・学科名	開設年度	修業年限	在学者数
日本歯科大学	生命歯学部・生命歯学科	昭和27年	6年	855人

2. 教育

令和4(2022)年度の教育は、世界規模でのCOVID-19拡大状況下での3年目として実施された。大学を挙げてのCOVID-19感染予防対策徹底のもと、4月からの授業はすべて時差通学を解除し、従来の9時開始に戻して行い、学務は学務予定表通りに開始し実施できた。

第1～5学年の授業は、前学期では曜日ごとに登校(対面授業)と遠隔(オンライン授業)を指定して実施した。その際、講義は1授業に対し2講堂を使用し、学生を指定位置に着席させ、密を避けて実施する形式を継続した。また教養系、基礎系、臨床系基礎実習は全員が登校で参加するようにした。その際、午後に実習のある日は、近隣在住の学生に限り午前の授業を自宅で受講のうえ、実習からの登校を認めた(第1学年は除く)。大学までの移動時は感染予防(不織布マスク着用、各種交通手段の空いている時期・時間帯を選んだ移動など)に努めることを指示し、学内では常にネームホルダーを着用することを徹底した。自宅でのオンライン受講環境を良好な状態に保つことと、健康管理を励行し、健康調査票の記入は毎日必ず行うことを継続して指示した。さらに学年ごとの注意事項を配付し、登校日についての補足事項を提示した。後学期からはすべて対面形式(遠隔講義なし)とし、第1学年の外部講師等による一部の科目は、所定の講堂でZoomによる遠隔講義とした。やむを得ない事由により、各科目においてZoomによる遠隔講義を実施する場合は、各科目から学生へ通知し実施した。各学年には学年別授業講堂を掲示し、実習科目に関しては、科目担当責任者から学生へのアナウンスにより実施した。

第6学年の授業科目はZoom講義による「対面」と「オンライン」形式とし、登校か遠隔かは学生が選択するハイブリッド型として実施した。なお、成績により一部の学生は登校を指定して実施した。本試験①②③の3回と第1回、第2回学士試験は印刷物を用いた対面試験とし、本試験は土曜と日曜の2日間で実施した。包括歯科医学①②に相当する学士試験は、木曜と金曜の2日間で実施し、歯科医師国家試験に準じた配点で採点し卒業判定を行った。

第5学年では、4月にスチューデントデンティスト認定証が交付され、診療参加型臨床実習を実施した。臨床実習は、まず8月までの期間を第一巡とし、全科で実習を行った後、二巡目で再度全科を履修した。第二巡が開始する8月以降、Post-CC PXの臨床実地試験(CPX)が開始され、各学生の修学状況に応じて実地試験が実施され、合格するまで形成的評価が続けられ、12月までに全員が合格した。一斉技能試験(CSX)は12月

末に本試験が実施され、1月の再試験を経て全員が合格した。Post-CC PXの合格は臨床実習修了のための必須項目であり、臨床実習の点数の一部に組み入れた。第5学年の水曜日は総合歯科医学の講義日とし、前学期は終日遠隔授業で、後学期は全員が登校しての対面授業を行い、9月と1月に定期試験を実施した。進級基準は、臨床実習65点、総合歯科医学65点を合格点とし、さらに2科目平均70点以上を合格とした。また、歯科医師国家試験形式で実施される360問の総合試験を3月に実施し、合格を以て第5学年修了とした。

新規授業科目としては、第1学年には学習法基本概論、基礎化学、基礎生物学を増設した。科目名変更としては、第1学年の病院医療概論実習を病院医療概論に、第4学年の社会歯科学を歯科医学概論に、第5学年の必修、総論、各論を纏めて総合歯科医学に、第2学年の歯科医療英語を歯学英语に、医療管理学を歯科医療概論に変更した。さらに新設科目として、各学年には第1学年に基礎医学演習1を、第2学年には基礎医学演習2を、第3学年には総合基礎医学演習を、第5学年には臨床歯学探究を、第6学年には総合科目①、総合科目②、総合科目③、包括歯科医学をそれぞれ加え、その成績評価は総合試験で行った。また科目の実施時期として第2学年後学期に実施していた歯冠補綴学を第4学年前学期に移動し、順序性を修正した。COVID-19への対応で対面授業が実施できなかった生命歯学探究に関しては、Zoom講義による遠隔授業を実施した。

教育の総括的評価となる前学期・後学期の定期試験については、共に対面試験を実施し、適確な学習評価を行った。第1学年、第2学年、第3学年、第5学年の総合試験に関しては、前年度の出題問題の一部を用いた模擬試験を12月末に実施し、試験問題の難易度や出題傾向を体験させ、3月の総合試験の準備を行うように指導した。3月に実施した総合試験はパソコンルームで実施したが、総合試験初日の第5学年総合試験中に端末が総合試験のサーバーと接続できないという不具合が初めて発生した。そこで、試験問題を管理している歯学教育支援センターが準備した印刷物用PDFファイルを利用して印刷物を用意し、紙媒体によるマークシート方式に変更して実施した。マークシート試験は、翌日以降の第1学年～3学年総合試験にも応用し、総合試験を予定通りに実施した。なお、第4学年に対する共用試験CBTは端末の不具合もなく正常に終了し、OSCEについても問題なく実施できた。令和4(2022)年度の学年平均点は、前年度の学年平均点とほぼ同様の結果であった。

令和4(2022)年度の教育内容の変更に関する各学年の学生への周知徹底は、学年別オリエンテーションで実施し、前年度と異なる点について学生便覧を併用して説明した。特に本学の履修科目は全科目必修であり、選択科目がないこと、歯科医師国家試験合格には本学の各学年の科目平均70点が最低必要であること、そして75点以上が歯科医師国家試験合格の安全圏内であることを提示し目標を明確に示した。この内容に関しては、保護者説明会でも説明しており、学生、保護者、教員の三者で教育状況を共有した。また、11月には、教員に対して生命歯学部教育フォーラムを開催し、「今後の本学に必要な教育姿勢」と題して、共用試験の公的化の解説と共に、令和4(2022)年度の教育方針と授業方法の確認を行い、対面、オンラインを問わず、プレテスト、

授業途中での中間テスト、ポストテスト等の講義実施方法の継続とその徹底を確認した。定期試験、総合試験の成績判定基準は変更せず、総合試験の追再試験も前年度と同様に実施しなかった。後学期定期試験がCOVID-19の関係で、受験できない学生には100点満点で追試験を実施した。

(1) カリキュラムの変更

第1学年には新潟生命歯学部で開始した教育法のPBL学習法を改良したLBP(LTD基盤型PBL)の指導を受け、話し合い基盤型問題解決演習として、まずはLBP(LTD基盤型PBL)学習法で要求される協同の精神及び協同学習の技法(傾聴、ミラーリング、ジグソー法等)を身につけるようにした。第2学年～第4学年に関しては、授業科目に変更点は無かった。

総合試験の試験問題数を第1学年は112問、第2学年は120問、第3学年は215問、第5学年は360問で行い、第6学年は360問で客観試験を実施し、合格点を70点とした。なお、第4学年のCBTは340問で合格点は73点とし、IRT標準スコア500点で合否判定を行った。

11月に実施した第6学年の進級審査で留級となった学生には、12月から3月まで問題解説自己学習を登校により実施し、自己学習習慣をつけると共に、弱点の自覚と対応を行い、3月の到達度確認テストでの成績上昇を目標とさせた。また、3月の進級審査にて留級となった第1学年～第5学年の学生に対しては、3月末に三者面談の希望をとり、面談の際に本人の弱点を説明し今後の目標を確認するようにした。今後の学習への取り組み方について確認し、次年度の成績向上の意志確認を行った。

(2) 学内LANの構築・利用とe-Learningの充実

学生の登校による対面授業への対応として、講義受講時は学生を2分割し、座席指定で同フロアの2講堂(141+142、151+152)を使用して行った。学年全員に対する一括講義には、臨床実習室、パソコンルーム、富士見ホールを使用することとした。それぞれ、Wi-Fi環境はeduroamを利用することが可能であるが、Zoom接続時に同一IPアドレスから同時に100人以上のアクセスをすると制限がかかることから、PC画面の投影による講義方式とした。また、教員の講義配信場所として、セミナー室等を準備すると共に、非常勤講師の講義配信は講堂へのカメラ設置、板書器機の配置等を行い、ライブ配信を一部行った。また、書画カメラでの資料提示も継続して行い、対面講義に近づけるようにした。授業のWeb配信に関しては、教員専用に遠隔講義マニュアルを更新してMoodle上に掲載した。以上により、遠隔授業はシラバス通りに実施することができた。

(3) 歯学教育支援センターとの連携

歯学教育支援センターでは、Zoomを用いた遠隔授業マニュアルを更新し、学生と教員がそれぞれ閲覧して授業に参加できるようにした。歯科医師国家試験に関連す

る専任教員のFDとして、第115回歯科医師国家試験の全問題への閲覧を実施し、関連問題についてのみ解答を求め、現在の歯科医師国家試験の出題傾向や話題を認識してもらうようにした。これらにより、共用試験CBTや歯科医師国家試験を見据えた問題演習を実施する上でのFDとなることを期待した。また、第6学年の本試験①②③、学士試験、第1学年～第3学年、第5学年の総合試験問題作成、第4学年の共用試験の準備と試験実施のために、教務・学生部と連携を取り、すべてを期間内に実施する事ができた。

(4) 学生の修学状態の確認

月に1回開催される学生指導委員会において、学生の出席状況の確認と多欠席者に対する指導の検討を行うと共に、定期試験後の成績不良者に対しては、学生と教員(学年主任、副主任、教学関係)との面談または状況に応じて保護者を交えた面談を行い、早期の原因究明と対策を継続して行った。

また、令和2(2020)年から新たにCOVID-19予防対策のためインターネットを用いて学生の健康管理(毎日の健康調査表の提出)を行っているが、令和4(2022)年度も同様の指導を講じた。

3. 学生募集

生命歯学部の子生募集として平成25(2013)年度入試より、一般選抜入学試験(前期)と大学入試センター試験利用入学試験(現:大学入学共通テスト)(前期)において、納付金総額を半額とする特待生制度を実施し、より優れた学生確保に向けた対策を講じ、実施した。

令和4(2022)年度の入試対策は、

- (1) 学校推薦型選抜(旧称:推薦入学試験)は、引き続き指定校推薦、一般公募推薦を実施した。
- (2) 入試の情報源である大学ホームページ、各社進学ネットなどでの広報の充実を図った。
- (3) 令和4(2022)年度のオープンキャンパスは、COVID-19予防対策を講じ、参加人数に制限を設け、学生の参加協力を得た従来型で、現地にて対面型で開催した。参加延べ人数は372人であった。開催日は、5月28日(土)、7月28日(木)、8月3日(水)と8月13日(土)、10月29日(土)と最終回の10月30日(日)で、8月13日(土)までの回は上限を60組、10月29日(土)と30日(日)の回は上限を70組として実施した。なお、8月3日(水)の午後は、多摩クリニックの見学会を15組上限で実施した。いずれの回も、学生による学内ツアーを実施した。また、令和2(2020)年度から行っているオンライン個別相談会や入試対策セミナーは令和4(2022)年度も開催した。

4. 歯科医師国家試験

第116回歯科医師国家試験は、令和5（2023）年1月28日（土）、29日（日）の2日間実施され、本学新卒者は巣鴨の大正大学で受験した。当日は学生部を中心に応援に駆けつけ、受験生は心強く思いつつ試験に向った。3月の合格発表では全国の総受験者数3,157人のうち2,006人が合格し、全国合格率は63.5%となった。生命歯学部の新卒合格率は86.3%で、102人受験で88人が合格しており昨年の75.2%から合格率が11.1%上昇した。令和5（2023）年度の新卒学生では学士試験成績が73点以上であれば100%合格するという結果が出た。卒業判定基準の直近4年間の合格率は75%以上で、しかも85%を越える良好な結果が安定しており、私立歯科大学17校中3位という結果を残した。また既卒者の合格者数が26人（55.3%）で、既卒者数も5年前の65人から35人まで減少し、次回の第117回の既卒受験者数は1浪14人、2浪11人、3浪以上9人となった。既卒者の合格率が3年間で上昇を示しており、今後も引き続き既卒者数は減少すると推察している。以上の結果から、生命歯学部の新卒合格者と既卒合格者の合計は114人となり、新潟生命歯学部の合格者50人と合計すると164人で、わが国の歯学部の中で最も多い合格者数を今年も本学が示すこととなった。

4年に一度改訂される歯科医師国家試験出題基準がCOVID-19の影響で1年遅れ、令和4（2022）年3月に公開されて以降初めての国家試験であった。必修問題にX2タイプ問題の出題が加わり、80問中4問にみられた。第6学年の試験問題依頼は、その新出題基準のブループリントに合わせて問題数を調整して実施した。合格基準については領域ABCが領域ABの総論と各論の2領域となり、相対基準で合否判定がなされたが、総論と各論の問題の判別は概ね実施できた。国家試験受験直後の聞き取り調査では、本学で習ったことが出題されており、習っていないことが出題されることはなかった。歯科医師国家試験関連科目が低学年にも含まれていることを再認識し、毎回の授業で問題演習を実施する授業方式を指導していることの継続が重要であることを確認した。また、低学年から教科書を中心とする授業の予習・復習を習慣化させ、能動的な“学び”を行うように生命歯学部教育フォーラムで徹底した。第4学年の共用試験歯学系CBTは、コアカリキュラムの範囲にあり、歯科医師国家試験では臨床実習で臨床を経験した学生に行われる試験であることの周知徹底を行ってきた。以上の取り組みにより、新卒者合格率を維持しながら今後も国家試験に合格する学生が増員すると思われ、好成績を期待出来る地盤を形成できた。

5. 富士見・浜浦フェスタ

両生命歯学部学生の相互の交流と学生生活を充実したものとすることを目的として、両生命歯学部の第4学年が年に1回、一堂に会する富士見・浜浦フェスタであるが、令和4（2022）年度は4月27日（水）から1泊2日の日程で、福島県耶麻郡磐梯町星野リゾート磐梯山温泉ホテルで開催を予定していた。また令和4（2022）年4月28日（木）から5月3日（火）まで両生命歯学部の合同合宿も予定していたが、両方ともCOVID-19対策のため中止した。令和5（2023）年度の富士見・浜浦フェスタと合同合宿の開催も

中止となった。

6. 保護者説明懇談会

令和元（2019）年度までは、同日に全学年の保護者を各学年の講堂に振り分け、全体説明会としてWebカメラ映像と音声を各講堂に一斉配信、その後各講堂で各学年の説明会を個々に実施し、最後にメモリアルホールで全体の懇談会を行っていた。令和3（2021）年度に続き、令和4（2022）年度も、COVID-19予防対策のため対面での実施を変更し、令和4（2022）年6月9日（木）から6月19日（日）までの期間にオンライン保護者説明会を設定し、インターネットを利用したオンデマンド配信で開催した。

7. 第55回全日本歯科学生総合体育大会開催への協力と参加

本大会は、我が国全ての歯学部学生が参加するスポーツ大会である。令和4（2022）年度第54回大会は、東北大学事務主管の下で準備が進められていたが、冬期部門、夏期部門ともにCOVID-19拡大の影響ですべてが中止となった。令和5（2023）年度の第55回大会は、昭和大学歯学部が事務主管となり、3年ぶりに冬期部門のラグビーフットボール部門が令和4（2022）年12月27日（火）から12月28日（水）の2日間にわたり九州大学歯学部の部門主管で福岡市内の雁ノ巣レクリエーションセンターで、スキー部門が令和5（2023）年3月22日（水）から3月26日（日）の5日間、神奈川歯科大学の部門主管で群馬県内のスノーパーク尾瀬戸倉で行われた。令和5（2023）年8月開催予定の夏期部門についても準備が進められており、開催された際には、第51回大会で総合第4位に入賞した経験を生かして大会運営に最大限の協力は惜しまない。

令和4（2022）年度から、COVID-19対策の一環として、活動計画書の事前提出を求め、練習日、練習人数の制限によるクラブ活動を許可制にて行った。

8. 図書館

（1）利用状況

①開館日数

開館時間	9時-17時	9時-19時	9時-20時	総開館日数
開館日数	21日	202日	17日	240日

②図書館サービス

貸出サービス（郵送貸出含む）		文献複写サービス	
人数	冊数	学外への依頼	学外からの依頼
2,367人	4,431冊	111件	906件

COVID-19 感染拡大防止による利用制限に対応するため、通常の図書館サービスに加え以下のサービスを実施した。

- ア 郵送による図書館資料の貸出
- イ メールによる文献調査・検索支援
- ウ データベースや電子ジャーナルのリモートアクセス

(2) 令和4(2022)年度受入資料冊数

資料	総冊数			寄贈のみの冊数		
	和書	洋書	合計	和書	洋書	合計
図書	454 冊	34 冊	488 冊	113 冊	2 冊	115 冊
製本雑誌	275 冊	477 冊	752 冊	82 冊	314 冊	396 冊
印刷体雑誌	257 誌	176 誌	433 誌	*一部は電子ジャーナルと重複		
電子ジャーナル	1,550 誌	9,103 誌	10,653 誌	*新潟生命歯学部図書館と共同購入		

図書委員会は全6回開催した。購入図書の選定については、各委員が日時別に来館して選書を行い、メールでの報告とした。

(3) データベース説明会の実施

- ① 図書館員による実習形式の文献データベース説明会を行った。
説明会内容：医中誌 Web、PubMed、JCR/EndNote/EJ、図書館ツアー
参加者：大学院生、レジデント 計 35 人 (全 7 回開催)
- ② 専門講師によるオンライン説明会を行った。
説明会内容：Web of Science 「情報の洪水にもう翻弄されない！～本当に読まなければいけない論文を 30 秒で発見する方法～」
参加者：教職員、大学院生 計 56 人

(4) 学生への教育支援

- ① 第1学年授業「歯科医療情報学実習」(9回)を実施した。
内容：図書館・OPAC・データベースの使用法、著作権に関する講義
図書館実習(スタンプラリー・図書館の利用方法・情報の検索)
- ② PCルームでの授業のため、PC設定・Zoom接続の支援を行った。
- ③ CBT・総合試験のため、PCルームのPC準備・メンテナンスを行った。
- ④ 無線(Eduroam)・Moodle・Office365・G Suiteの利用者登録と接続支援を行った。
- ⑤ 新着図書の案内を図書館入り口前に掲示し、利用を促した。

(5) 寄贈雑誌の整理

新潟生命歯学部図書館からの寄贈図書と雑誌 301 冊を受入れ、整理をした。

(6) 図書館広報

- ①各講座からの推薦図書を展示し、更に Face Book・メーリングリストを利用して図書紹介を行い図書の利用が増えるよう努めた。
- ②「日本歯科大学校友会・歯学会会報」(年4回)・「KOYU Times」(年4回)に図書館紹介記事を掲載した。

(7) 日本歯科大学学術機関リポジトリにデータ追加

「日本歯科大学生命歯学部研究年報 令和3(2021)年度」・「日本歯科大学紀要・一般教育系」(51巻 March 2022)を追加した。

(8) 学内 LAN およびネットワークセキュリティ

①学内 LAN メンテナンス

ア 令和4(2022)年12月 電気設備定期点検時に LAN 関係機器の停止を行った。

イ 令和5(2023)年2月 業者による UPS の交換・点検の立会と確認をした。

②令和4(2022)年9月 学内 LAN 機器のリプレース及び有線 LAN と無線 LAN の回線・機器の一本化を行った。

③サイバー攻撃や不審メール等のセキュリティに関する注意喚起をメーリングリスト及び学内掲示を利用して広報した。

(9) 大学ホームページの更新

各講座からの依頼により、生命歯学部ホームページの更新・追加編集、また学内電子メールアドレス一覧・客員教授一覧のページ更新を行った。

(10) 診療ガイドライン作成支援(歯科関連学会からの依頼)

日本歯科保存学会「う蝕治療ガイドライン」、日本顎関節学会「顎関節症診療ガイドライン」、日本歯内療法学会「日本歯内療法学会診療ガイドライン」作成においてそれぞれの学会の要請から文献検索の支援を行った。

9. 公益財団法人大学基準協会の専門分野別評価(歯学教育評価)受審準備

令和4(2022)年度から大学基準協会において本格導入された専門分野別評価(歯学教育評価)を、令和5(2023)年度受審する。それにあたり、大学の教育研究、組織運営及び施設設備の総合的評価を受けるための資料を作成し、令和5(2023)年3月末に歯学教育評価点検・評価報告書及び根拠資料を提出した。

10. 研究

(1) 科学研究費について

①令和4(2022)年度の採択について

令和4(2022)年度分 生命歯学部科学研究費助成事業採択件数及び配分金

研究種目	審査区分	採択件数	配分額(千円)
基盤研究(B)	一般	1	1,690
基盤研究(C)	一般	32	40,950
研究活動スタート支援		2	2,730
若手研究		22	28,210
合計		57	73,580

②令和4(2022)年度の申請について

令和5(2023)年度分 科学研究費補助金申請件数

研究種目	件数	研究種目	件数
基盤研究(B)	1	挑戦的(萌芽)	1
基盤研究(C)	72	挑戦的(開拓)	1
研究活動スタート支援	6	若手研究	20
		合計	101

③令和4(2022)年度科学研究費助成事業に関する活動について

日付	場所	内容	人数・件数
3月22日	第2会議室	科学研究費助成事業の取扱いについての説明会	研究者10 事務担当者6
4月1日		交付内定(科学研究費補助金) (学術研究助成基金助成金)	新規1 新規14
4月21日		交付申請(補助金・基金助成金)	研究代表者15
5月11日		研究活動スタート支援	申請件数6

5月31日		令和3年度分実績報告書提出（補助金） 令和3年度分実績報告書提出（基金） 令和3年度分実績報告書提出（一部基金） 令和3年度分実施状況報告書提出	研究代表者 1 研究代表者 8 研究代表者 0 研究代表者 53
6月20日		公的研究費に係る他機関の不正事案について	
6月21日		交付決定（補助金・基金助成金）	研究代表者 15
8月15日	オンライン	科研費制度の説明会 ・令和5年度科研費応募申請について ・不正使用・不正行為防止説明会 ・サクッとセミナー（新潟大学 RETOP） ・申請書等の名古屋議定書への対応 記載例について	研究者 109 事務担当者 16
9月16日		交付内定（研究活動スタート支援）	新規 1
10月3日	オンライン	研究倫理セミナー（新潟大学） 研究活動における「公正さ」と社会責任	研究者 119 事務担当者 1
10月5日		計画調書提出	申請件数 95
12月16日		公的研究費に係る他機関の不正事案について	
3月29日 ～31日		内部監査 通常監査 5件、特別監査 1件	

(2) 産学等連携について

(令和4(2022)年度 生命歯学部委託研究費一覧)

月 日	研究依頼者	講 座	金 額 (単位：円)	研究内容
-----	-------	-----	---------------	------

令和4年 4月28日	埼玉県済生会栗 橋病院	放射線・病理診 断科	170,000	胃癌・乳癌に対する免疫 組織化学および分子病理 学的検討
5月16日	デンツプライシ ロナ(株)	接着歯科学講 座	500,000	最近の all-in-one adhesive systems によ る歯髄圧負荷象牙質接着 強さの量的質的評価
5月20日	ライオン(株)	口腔リハビリ テーション科	1,056,000	口腔機能低下症患者にお けるオーラルフレイル対 策サービス (ORAL FIT) の有用性に関する 検討
5月27日	埼玉県済生会栗 橋病院	放射線・病理 診断科	60,000	胃癌・乳癌に対する免疫 組織化学および分子病理 学的検討
5月31日	クラレノリタケ デンタル(株)	接着歯科学講 座	500,000	試作品の評価およびボン ディング、CR、セメン ト分野における製品の評 価
6月28日	(公社)東京都 歯科医師会	歯周病学講 座	250,000	歯周組織再生療法を効果 的に活用するには？
6月28日	(公社)東京都 歯科医師会	接着歯科学講 座	250,000	メタルフリー接着修復の 最新情報と勘所ーコンポ ジットレジン修復から CAD/CAM 冠修復まで ー
6月28日	(公社)東京都 歯科医師会	歯科保存学講 座 他	250,000	歯内療法のパラダイムシ フト
6月28日	(公社)東京都 歯科医師会	口腔外科学講 座 他	250,000	抜歯に関連する偶発症・ 合併症の理解と予防
6月30日	埼玉県済生会栗 橋病院	放射線・病理 診断科	147,500	胃癌・乳癌に対する免疫 組織化学および分子病理 学的検討
7月20日	(株)ジーシー	歯科補綴学第 1講座	663,730	咀嚼能力検査システムに 関する情報の対価に伴う 技術指導料

7月29日	埼玉県済生会栗橋病院	放射線・病理診断科	30,000	胃癌・乳癌に対する免疫組織化学および分子病理学的検討
8月25日	サンメディカル(株)	歯科保存学講座	300,000	根管充填用改良シーラーの吸水膨張に関する研究
8月26日	北京小仙炖生物科技有限公司	薬理学講座 他	3,100,000	骨粗鬆症と慢性炎症の三次元疾患モデルに対する燕の巣の予防治療効果
8月31日	埼玉県済生会栗橋病院	放射線・病理診断科	60,000	胃癌・乳癌に対する免疫組織化学および分子病理学的検討
9月12日	(株)松風	歯科理工学講座	375,000	超高透光性ジルコニア材料の基礎物性に関する研究
9月30日	埼玉県済生会栗橋病院	放射線・病理診断科	137,500	胃癌・乳癌に対する免疫組織化学および分子病理学的検討
9月30日	クラレノリタケデンタル(株)	接着歯科学講座	500,000	試作品の評価およびボンディング、CR、セメント分野における製品の評価
10月7日	(一社)日本歯科技工学会	歯科技工室	100,000	チタンに対するパッチテスト試薬有効性についての調査研究
10月31日	埼玉県済生会栗橋病院	放射線・病理診断科	122,500	胃癌・乳癌に対する免疫組織化学および分子病理学的検討
11月30日	埼玉県済生会栗橋病院	放射線・病理診断科	107,500	胃癌・乳癌に対する免疫組織化学および分子病理学的検討
12月20日	(株)ジーシー	歯科補綴学第1講座	745,818	咀嚼能力検査システムに関する情報の対価に伴う技術指導料
12月23日	デンツプライシロナ(株)	歯科保存学講座	800,000	新しいNiTiロータリーファイルの特性 専用ガッタパーチャとIOS規

				格に合うガッタパーチャの比較
12月28日	埼玉県済生会栗橋病院	放射線・病理診断科	175,000	胃癌・乳癌に対する免疫組織化学および分子病理学的検討
令和5年1月31日	埼玉県済生会栗橋病院	放射線・病理診断科	127,500	胃癌・乳癌に対する免疫組織化学および分子病理学的検討
1月31日	(株)イマダ	生命歯科学講座	500,000	再生医療に向けた細胞シート物の物性評価と品質評価システムの開発
2月28日	埼玉県済生会栗橋病院	放射線・病理診断科	92,500	胃癌・乳癌に対する免疫組織化学および分子病理学的検討
2月28日	(株)松風	歯周病学講座	300,000	歯周組織検査と併用したPMTキット検査の有用性について
3月31日	埼玉県済生会栗橋病院	放射線・病理診断科	117,500	胃癌・乳癌に対する免疫組織化学および分子病理学的検討
3月31日	クラレノリタケデンタル(株)	接着歯科学講座	500,000	試作品の評価およびボンディング、CR、セメント分野における製品の評価
3月31日	旭化成ファーマ(株)	歯周病学講座	1,100,000	新規歯周病診断マーカー探索の検討
		合計	13,388,048	

1 1. 国際交流

本学はIUSOHとして海外15ヶ国18校と姉妹校提携を行っており、交換学生、訪問学生の受入れを実施してきた。平成26（2014）年3月から姉妹校である台湾の中山医学大学歯学部にも、また同年7月から同じく姉妹校の中国の四川大学口腔医学院にそれぞれ2人の交換学生を派遣したが、令和2（2020）年度、令和3（2021）年度に続き令和4（2022）年度もCOVID-19拡大により中止した。

同じく、中山医学大学とブリティッシュ・コロンビア大学歯学部とマンチェスター大学との交換留学制度も令和4（2022）年度においても中止した。

1 2. 施設・設備関係

(1) 令和4（2022）年度に実施した主な施設・設備工事等

(単位：円)

No	件名	場所	金額	目的
1	本館設備改修更新工事（3年目）	本館	1,018,282,275	改修
2	東京木場寮屋上外壁防水工事	東京木場寮	49,500,000	改修
3	学内LAN更新工事	本館、百周年記念館	39,996,000	更新
4	歯科ユニット 6台	附属病院 総合診療科他	16,004,994	更新
5	高圧蒸気滅菌器更新	附属病院 中央材料室	14,850,000	更新
6	无影灯	附属病院 中央手術室	13,860,000	更新

(2) 科学研究費間接経費

令和4（2022）年度の科学研究費間接経費（1,674万3,600円）の用途について学内で募集を行い、運用委員会で審議した結果、下記の備品購入、生物科学施設保守点検費用および光熱水費に決定、執行した。

No	品名	場所	金額 (単位：円)	目的
1	ネオオスミウムコータ	共同利用研究センター	3,297,250	学内全体での使用

2	デジタルイメージングプレート トスキャナ	〃	1,922,602	〃
合 計			5,219,852	

13. 人事関係

(1) 役職教員の選任について

令和4(2022)年4月1日付の役職教員について、令和4(2022)年3月開催の理事会において次のとおり決定し、選任された。

役 職 名	所 属	職 階	氏 名
歯学部長(重任)	歯周病学講座	教授	沼部 幸博
教務部長(重任)	歯科保存学講座	教授	五十嵐 勝
学生部長(重任)	解剖学第2講座	教授	菊池 憲一郎
多摩クリニック院長(重任)	口腔リハビリテーション科	教授	菊谷 武
共同利用研究センター所長 (重任)	共同利用研究センター	教授	那須 優 則
大学院研究科長	小児歯科学講座	教授	苅部 洋行

(2) 教員評価

平成16(2004)年度から本格実施されている教員評価については、「日本歯科大学教員評価要項」に基づき、5項目の評価項目に関しコンピュータ処理によって分析・集計され、全教員へのフィードバックを実施している。

令和4(2022)年においては、COVID-19の感染拡大の影響を受け、教員活動調査を行ったが、講義はWeb配信による遠隔講義も行われたため評価は実施しなかった。

(3) 教員活動調査

分 野	種 類	調 査 期 間	調 査 時 期
教 育	「学生による授業評価」調査票	4月～翌3月	授業実施の都度

(4) 教職員福利厚生について

①令和4(2022)年度教職員健康診断

例年と同様に6月に実施し、全教職員個別宛に結果報告をした。

日付	場所	内容	人数
令和4年3月25日	法人人事部	実施打ち合わせ	担当者 2
令和4年6月7日～9日	大学内	教職員定期健康診断 (第1回有害業務従事者健康診断)	受診者 697
令和4年6月13日, 14日	大学駐車場	胃X線間接撮影	受診者 90
令和4年11月29日～ 12月22日	附属病院・ 多摩クリニック	第2回有害業務従事者健康診断	受診者 94

②令和4(2022)年度教職員B型肝炎ワクチン予防接種

日付	場所	内容
令和4年4月1日～ 令和5年3月31日	附属病院 内科外来	健康診断結果報告書に基づき、各自が内科外来にて予約接種(随時受付)

14. 研究活動における不正行為の防止に関する研修会について

文部科学省において、研究活動における不正行為への対応等に関するガイドラインへの対応策の通達があり、本学においても研究活動における不正行為等の研修会等を教職員等に対して実施した。

なお、本年度はコロナ禍の為、期間を限定しオンライン(Moodle)にて次の通り開催した。

(1) 科学研究費の応募説明会

日時：令和4年8月15日(月)

対象者：科学研究費応募者

15. 環境の整備

COVID-19感染拡大防止について、昨年度に引き続き必要な場所に手指消毒液、アクリルパーテーション、サーモカメラ等の設置を行った。学生のグループ学習については引き続き制限をかけ、学生へのセミナー室等の開放は実施しなかった。

16. 危機管理体制

大規模災害（震災）やCOVID-19に備えて、生命歯学部緊急連絡網の更新を行いながら、マニュアル等の見直し等を行い、教職員の安全強化を図った。

17. 千代田区との大規模災害時における協定

本学は、千代田区と地震、水災等の大規模災害時における帰宅困難者等被災者受入に関する協定を締結している。また、千代田区帰宅困難者等一時受入施設として、千代田区から、災害時特設公衆電話および一時受入施設用看板の設置を行い、千代田区との連携を図っている。令和4（2022）年度は、毎月の無線通信訓練及び角川ビルに保管してある備蓄品の確認・更新を実施した。

18. 地域との関わり

千代田区との地域連携として、本学は平成27（2015）年度から区民を対象とした区民公開講座を毎年1回実施している。令和4（2022）年度においても11月24日（木）に以下のとおり開催した。

名称	開催日	開場	テーマおよび講師
区民公開講座	11月24日（木）	富士見ホール	だ液は何から、作られ何をするの？ ～だ液は健康のバロメーター～ 附属病院 副院長 口腔外科 教授 松野 智宣

19. 外部研究費獲得に向けた事務支援体制の強化

科学研究費等の外部資金獲得に向けて事務職員の支援体制の強化を計ることを目的に、学内専用ホームページを使用した情報発信、各種研修会への参加を実施した。

20. 事務職員研修

令和4（2022）年度の事務職員研修については、オンラインや対面にて様々な講習会に参加することができた。受講後は研修報告書を提出させ、他の職員との情報共有も図った。今後は、研修内容の報告会を実施する予定である。

21. 附属病院

（1）診療実績について（歯科・医科）

令和4（2022）年度診療実績については、下表のとおりとなった。

附属病院については、「患者数」は前年度に比べ、歯科の外来・入院は増加となったが、医科の外来・入院は減少となった。開院日数は夏期3日間の休院をせず開院したことにより、前年度より5日多い241日となった。「外来収入」の詳細として、前年度に比べ歯科の外来は減少し、医科の外来は大幅に増加した。「入院収入」

は、医科の入院が減少したが、歯科の入院が大幅に増加したことにより、収入総合計は、2年連続20億円を突破し、過去最高の21億2,700万円超となった。

多摩クリニックについては患者数、収入とも減少したが、附属病院と多摩クリニック合計で23億1,200万円を確保し、前年度比2.1%増の4,700万円の増収となった。

① 延べ患者数（人）

区分		令和4年度 (A)	令和3年度 (B)	差引 (A-B)	増減 (A/B)
外来	歯科	161,443	157,106	4,337	2.76%
	医科	11,009	11,222	-213	-1.9%
	小計	172,452	168,328	4,124	2.4%
	1日平均来院患者数	715.6	713.3	2.3	0.3%
	多摩クリニック(243日)	16,054	16,156	-102	-0.6%
	多摩クリニック1日平均来院患者数	66.1	66.5	-0.4	-0.6%
	合計	188,506	184,484	4,022	2.2%
入院	歯科	2,214	2,151	63	2.9%
	医科	1,601	1,861	-260	-14.0%
	合計	3,815	4,012	-197	-4.9%
	1日平均入院患者数	10.5	11.0	-0.5	-4.9%

注：退院患者除く

② 診療収入（円）

区分		令和4年度 (A)	令和3年度 (B)	差引 (A-B)	増減 (A/B)
外来	歯科	1,428,662,768	1,434,404,309	-5,741,541	-0.4%
	医科	213,193,511	194,663,389	18,530,122	9.5%
	小計	1,641,856,279	1,629,067,698	12,788,581	0.8%
	多摩クリニック	185,242,890	190,041,704	-4,798,814	-2.5%
	合計	1,827,099,169	1,819,109,402	7,989,767	0.4%
入院	歯科	289,555,989	189,523,576	100,032,413	52.8%
	医科	195,494,131	256,065,516	-60,571,385	-23.7%
	小計	485,050,120	445,589,092	39,461,028	8.9%
総合計		2,312,149,289	2,264,698,494	47,450,795	2.1%

注：診療実績に基づき算出

(2) 医科・歯科との連携

本院は医科併設歯科病院であり、その特色を生かした医科歯科連携を実施してきており医科と歯科が良好に連携している。特に、4年前に新設された乳腺外科においては、入院手術患者のみならず化学療法患者の周術期診療のニーズが増え、口腔リハビリテーション科がその対応を担い、適切な連携が構築されている。

一方、院内の歯科と医科との連携は、増加している有病者の歯科治療において医科併設の特徴を活かし、診療情報を共有し、全身状態を把握しながら医療安全に配慮した歯科治療を積極的に行っている。また、医科や歯科のかかりつけ医がいる患者の観血的処置においては、「診療情報提供依頼書」による診療情報の共有を積極的に行うよう指導し、安心・安全な歯科医療の実践を目指している。

また、歯科診療中の誤飲・誤嚥発生時や患者の体調急変時等には、医科での対応

が図れる体制が構築され、緊急時にも迅速な対応が取られている。さらに、いびき・睡眠時無呼吸センターの患者は内科、アレルギー疾患や全身的な皮膚疾患による口腔症状を有する患者などは皮膚科との連携が構築され、院内の医科歯科連携体制が提供されている。今後はさらに周辺の総合病院などと連携を図り、地域医療機関と幅広い医科歯科連携が取れるよう、さらなる円滑な連携の強化を目指すよう努力する。

(3) 医療連携室の活動

令和4(2022)年度における本院の医科・歯科の紹介患者総数は1万1,512人で、前年度に比べて0.6%の微増であった。歯科の紹介患者数は1万1,165人で1.1%増であったが、医科では14.5%減の347人であった。また、医療連携の基本である紹介医への返信については、1か月後の時点で100%の返信率を維持できていた。なお、2週後の返信率は約90%で、今後はこの時点で100%になるよう更なる指導を行う予定である。

そのため、紹介医への診療報告書の速やかな発送および返信の確認、診療情報提供書の配布および診療科・センター担当医一覧表の配布、紹介患者さん向けのリーフレットなどの発行と配布、病院ホームページへの情報掲載および更新を行った。

また、本年度は、「医療連携認定証」の認定期間を2年から3年へと変更を行い、36件の施設を認定した。

さらに、3年前に大幅に改定した診療情報提供書に関しても、紹介を行いやすく患者に不都合を与えないようにするため、さらなる加筆・修正を行い、病院ホームページからダウンロードすることが可能となり、速やかに紹介状を利用することができるようにした。

なお、今年度の医療連携学術講演会はオンライン開催も実施されなかったが、次年度は対面での開催を予定している。

(4) 卒後教育について

歯科医師臨床研修修了者およびそれに準じる者を対象に、2年間の卒後研修プログラムとして矯正歯科研修コース、小児歯科研修コース、口腔リハビリテーション研修コース、口腔インプラント研修コース、歯内療法研修コース、保存修復研修コース、歯周病研修コース、補綴治療研修コース、口腔外科研修コース、歯科麻酔・全身管理科研修コースならびに放射線・病理診断科研修コースの11コースを開設している。歯科衛生士、歯科技工士を対象に、1年間の卒後研修プログラムとして歯科衛生士研修コース、歯科技工士研修コースを令和4(2022)年度より新規に開設した。

令和4(2022)年度は、矯正歯科研修コースに2年7人、1年4人、小児歯科研修コースに2年3人、1年3人、口腔リハビリテーション研修コースに2年3人、1年2人、口腔インプラント研修コースに1年1人、歯内療法研修コースに2年1

人、1年6人、保存修復研修コースに2年1人、1年1人、歯周病研修コースに2年1人、1年2人、補綴治療研修コースに2年1人、口腔外科研修コースに、1年3人、歯科麻酔・全身管理科研修コースに2年1人、1年3人の受講生が在籍した。令和4(2022)年度、受講生21人はそれぞれ3月に所定の単位を取得したため、修了証を授与した。また、歯科衛生士研修コースに在籍した2人は3月に所定の単位を取得したため、修了証を授与した。

各研修コースの修了者およびそれに準じる者を対象に、単年度更新のアドバンスコースも設けており、本年度は、矯正歯科研修アドバンスコースに1人、口腔リハビリテーション研修アドバンスコース4人、歯内療法研修アドバンスコースに2人、保存修復研修アドバンスコースに1人、歯周病研修コースアドバンスコースに2人ならびに、歯科麻酔・全身管理科研修アドバンスコースに1人、の計11人に研修を実施した。

臨床見学研修として、前期(4月～9月)は、口腔インプラント診療科1人、口腔外科1人、歯周病科10人の合計12人を受け入れた。後期(10月～3月)は、口腔インプラント診療科2人、口腔外科1人、小児歯科1人、歯周病科12人、口腔リハビリテーション多摩クリニック1人の合計17人を受け入れた。

(5) 附属病院の省エネ活動について

本院の令和4(2022)年度の電気使用量は前年度の2.5%増加となった。その理由として、感染症対策のための定期的な換気により冷暖房費が増加した点が挙げられた。また、一般廃棄物や産業廃棄物を減らすためにごみの分別を行いリサイクルの徹底を図った。令和5(2023)年度は院内の節電対策に積極的に取り組み、産業廃棄物の減量化と再資源化を推進し、電気使用量とCO₂排出量の削減に努めていきたい。

(6) 歯科医師臨床研修の特色について

①令和4(2022)年度歯科医師臨床研修受入人数について

令和4(2022)年度歯科医師臨床研修に関して、管理型長期プログラムに所属する研修歯科医は30人(管理型8か月+協力型4か月)、協力型長期プログラムに所属する研修歯科医は17人(管理型4か月+協力型8か月)、協力型複数プログラムに所属する研修歯科医は28人(管理型4か月+協力型4か月+協力型4か月)、単独型プログラムは9人であり、各研修プログラムに従って、臨床研修を行った。

②研修歯科医の評価方法について

研修歯科医の評価方法に関しては、ポートフォリオ評価システムを導入している。内容に関しては、様式に従い日々の診療内容を記載し、指導歯科医からのフィードバック等を行い適正な評価を行っている。研修歯科医修了判定は、目標を

達成するに必要な 156 症例、必須レポートの提出および研修ノートの評価から、総括的評価を行った。

③研修歯科医の協力型臨床研修施設への配属決定について

本年度から、研修プログラムの変更により協力型施設での研修が 4 月からとなった。それに伴い、協力型施設での研修先を決定する群内マッチングの準備が 2 月から始まった。研修歯科医の協力型臨床研修施設への配属方法は、平成 18(2006)年度から導入した本邦初の群内マッチングシステムを改良し、エクセル媒体による新たな群内マッチングシステムに基づき、双方の希望に沿った組合せ決定を行った。

④研修歯科医の研修セミナー教育について

研修歯科医を対象としたキャリアデザイン研修セミナーを開催し、歯科医師としての方向性や目標を定めるための研修を行った。

⑤附属病院における令和 4（2022）年度協力型臨床研修施設について

令和 4（2022）年度新規協力型臨床研修施設は 1 施設、日本歯科大学附属病院協力型臨床研修施設は 123 施設、研修協力施設は 18 施設であり、臨床研修施設群方式に沿った臨床研修が行えるように整備が図られた。

⑥附属病院を志望する研修歯科医説明会及び研修歯科医採用試験

令和 5（2023）年度研修歯科医説明会は、オンデマンド方式で 10 日間実施した。

令和 5（2023）年度研修歯科医採用試験は、本学在学者・本学既卒者を対象に書類審査・小論文、他大学出身者（応募者 98 人）については書類審査・小論文に加えオンラインによる面接を行い、採用に関しては、総合評価で歯科マッチングへの順位づけを行った。

(7) 歯科衛生士実習生の臨床実習受入について

附属病院では、臨床実習教育の一環として当短大の学生だけでなく幅広く他学校の歯科衛生士実習生の受け入れを行っている。

令和 4（2022）年度の受け入れ実績として、日本歯科大学東京短期大学は令和 4（2022）年 4 月～9 月に 70 人、10 月～3 月に 64 人、新宿医療専門学校から令和 4（2022）年 4 月～5 月に 12 人、東邦歯科医療専門学校から令和 4（2022）年 9 月～令和 5（2023）年 8 月に 32 人、日本ウェルネス歯科衛生士専門学校から令和 4（2022）年 10 月～令和 5（2023）年 3 月に 43 人、日本医歯薬専門学校から令和 4（2022）年 6 月～11 月に 16 人、大宮歯科衛生士専門学校から令和 4（2022）年 4 月に 41 人の歯科衛生士実習生の受け入れがあった。臨床実習開始前には Zoom に

よるオンラインでのオリエンテーションを行い、病院内個人情報保護、院内感染対策、感染性廃棄物の処理、臨床実習における注意事項の指導も行っている。

(8) 臨床実習について

令和4(2022)年度は、3年ぶりに4月の新年度から通常どおり101人の第5学年全員が診療参加型の臨床実習を開始することができた。病院での実習は、前期(第1ラウンド・4月4日(月)～7月29日(金))と後期(第2ラウンド・8月1日(月)～2月24日(金))に各診療科をローテートする実習方法を実施した。さらに3月1日(水)～3月15日(水)までは必須選択実習として全員が診療参加型実習を行った。また、Post-CC PXのCPXとCSXも予定通り実施することができ、受験者全員が合格した。次年度への問題点としては、自験例をどのように増やすか、またローテート方式を取りながら持ち患者制をどのように実施するかなどの課題が残されている。

また、今回の臨床実習とともに、7月と1月に臨実問題に対応するための臨実到達度試験(オリジナル問題65問)、後期から毎月最終水曜日の5時限目に過去5年間の国試問題をクリアするための国試過去問による確認テスト(各回50問)、毎週金曜日の実習終了後には小テストを行い、第5学年の総合試験および学士試験、国家試験に向け早期から自主学習を身につけるよう指導した。

なお、今年度もCOVID-19の影響で、すべての交換留学、交換臨床実習が中止となった。

(9) 診療科の活動について

①総合診療科

ア. 総合診療科1

総合診療科は、本学学部学生の臨床実習を主に行う診療科であり、一次医療教育にあたっている。特定非営利活動法人日本歯科保存学会および一般社団法人日本歯内療法学会の認定研修施設であり、総合診療科1には、両学会の認定研修施設長が在籍している。日本歯科保存学会の専門医・指導医1人、専門医1人、認定医11人、日本歯内療法学会の専門医・指導医1人、専門医1人が在籍している。令和4(2022)年度は、教授1人、准教授1人、助教12人、非常勤歯科医師2人、臨床研究生9人、臨床講師12人で構成された。そのほか、歯内療法チーム員に属する歯科保存学講座の先生方も協働して、マイクロスコープ下での治療を中心に、主に歯内療法の紹介患者の診療を行っている。

令和4(2022)年度の年間外来のべ患者数は2月現在で1万9,828人、令和3(2021)年度と比較し、1か月前で既に1,096人増加した。令和4(2022)年度の総収入額は2月現在、8,263万853円で、令和3年(2021)年度と比較し、1か月前で既に17万1,999円の増収となった。

令和4(2022)年度は、科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)の申

請が2件採択され、順調に研究も進んでいる。また、令和5(2023)年度の科学研究費助成事業の採択を目指し、多数申請を行い、基盤研究(C)(一般)課題番号23K09188、1件が採択された。歯科保存学講座と共催で東京都歯科医師会の卒後研修を開催したほか、7件の学会関係の研修会を主催した。

研究においては、著書5編、英文原著4編、報告7編の業績があった。研究発表6件、学会からの依頼講演2件、歯科医師会などでの講演18件を行った。また、令和4(2022)年度は、日本顕微鏡歯科学会ポスター発表大会長賞1件を受賞した。1人が学位(歯学博士)を取得、2人が日本歯科保存学会の認定医を取得、1人が公認心理師(国家資格)を取得した。

令和5(2023)年度は、日本歯科保存学会および日本歯内療法学会の専門医・認定医取得者をさらに増やし、紹介患者数の増加とさらなる研究業績をめざして努力したい。

イ. 総合診療科 2

令和4(2022)年度の総合診療科2は、常勤13人、非常勤4人、レジデント3人を含む20人で構成され診療に従事した。令和4(2022)年度の収入は1億59万4,450円、延べ患者数は、1万7,906人であり、前年度と比較し約850万円の増収で患者数も約510人の増加であった。COVID-19の状況下であっても前年の実績を超えることが出来た。診療内容は一般診療が主体であり、その中で臨床実習生や臨床研修医、レジデントに対し指導医による保存修復学を中心とした教育と臨床の指導を行った。具体的に、臨床実習生には、総合試験や臨床能力試験対策を口答試問やスライドを用いた講義、模型を用いた技能実習を実施し、臨床研修医には、院外研修でも対応出来るような臨床指導や症例発表会を開催、レジデントにおいては日本歯科保存学会認定医取得に向けた学会発表に対する研究や症例発表に対する指導、保険診療についての講義などを行い育成に努めた。

また、令和4(2022)年度では、日本歯科保存学会認定医を1人、日本接着歯学会専門医を2人、日本歯科審美学会認定医を1人がそれぞれ取得することが出来た。

次年度においても、教育や研究そして臨床実績を向上させるための努力を継続していくよう努めたい。

ウ. 総合診療科 3

令和4(2022)年度は、日本歯周病学会の認定医取得者が5人であり、全体で指導医3人に専門医1人、認定医14人となり、医局員20人にレジデント5人のうちほとんどの医局員が資格を取得した。診療としては、歯周組織再生療法や歯周形成外科、レーザー治療などの先端技術も取り入れ、歯周治療の専門性を高めている。

エ. 総合診療科 4

本学学部学生の臨床実習を主に行う診療科であり、一次医療教育にあたっている。所属員構成は、教授 3 人、准教授 4 人、講師 2 人、助教 4 人、非常勤歯科医師 4 人、レジデント 1 人であり、一般歯科診療のほか、他院および院内からの補綴治療に関する専門的な診療依頼に対応している。

令和 4（2022）年度における延べ来院患者数（外来）は 1 万 5,927 人であり、診療収入は 1 億 2,212 万 104 円であった。

②小児歯科

小児歯科は日本小児歯科学会専門医指導医 3 人、専門医 7 人、認定医 1 人を含む小児歯科研修を修了した歯科医師、レジデントにより構成される。診療内容は齲蝕予防、齲蝕治療、歯の外傷、口腔機能発達不全、小児の咬合誘導、萌出異常、過剰歯、埋伏歯、舌小帯、上唇小帯など小手術の治療といった小児歯科一般診療に加え、歯科治療に協力が得られない多数歯齲蝕の患児や治療困難な小児・障害児に対して、高次医療機関としての診療を行っている。行動変容法により治療への適応能力の向上が認められない場合には、抑制下や全身麻酔下での治療を実施している。近年患者側と医療者側の要望を踏まえた上で全身麻酔での集中治療、完全埋伏過剰歯の抜歯などが増加している。

令和 4（2022）年度は外来延べ患者数 1 万 2,180 人、新患数 2,025 人で、紹介患者数は 905 人と増加しており、全身麻酔下での歯科治療は 208 件であった。また、重度心身障害児の施設、在宅への訪問診療を口腔リハビリテーション科と連携して行っており、今年度は増加した。日本小児歯科学会、日本障害者歯科学会など関連学会に症例報告、臨床統計などの発表を積極的に行っている。患児ならびに保護者向けに小児歯科情報を発信することを目的に「こども新聞」を発刊し、ホームページ上で公開している。

③矯正歯科

矯正歯科は公益社団法人日本矯正歯科学会指導医資格を有する 3 人、認定医資格を有する 7 人を含む合計 11 人の常勤歯科医師と 12 人の臨床助手、レジデント 12 人により構成される。混合歯列期の治療、叢生、空隙歯列、上顎前突、反対咬合、開咬などの不正咬合、埋伏歯や先天性欠如による咬合異常、補綴処置に伴う矯正歯科治療を行っている。また、顎変形症や多数歯欠損、唇顎口蓋裂などの各種症候群の保険治療を行っている。さらに必要に応じて、東京医科大学、東京慈恵会医科大学とも連携している。装置については、可徹式矯正装置、審美的な装置、舌側矯正装置、セルフライゲーションブラケット装置などを使用している。また、ブラケットやワイヤーには金属アレルギーの原因となるニッケルをほとんど含まない（含有量：約 0.5%）安全性の高いものを採用している。令和 4（2022）年度における延べ来院患者数は 1 万 7,983 人（内新規患者数 756 人）であった。

令和 5（2023）年度は患者数の増加をめざして努力したい。

④ 口腔外科

口腔外科では診療科所属員と講座所属員で協働して診療に従事している。令和 4（2022）年度は公益社団法人日本口腔外科学会の最上位資格で指導医 5 人、専門医 1 人、認定医 8 人が在籍しており、総勢 32 人の歯科医師で診療に従事した。

令和 4（2022）年度全体での口腔外科の外来収入報告は未着であるため 2 月末までの金額となるが収入金額は約 1 億 8554 万円（月平均 1,687 万円）であり、これは令和 3（2021）年度の 2 億 3,940 万円（月平均 1,995 万円）と比較すると大きく落ち込んでしまった。

しかし、入院収入に関しては令和 3（2021）年度は 8,944 万円（月平均 745 万円）であったが令和 4（2022）年度は 2 月末までで 1 億 478 万円（月平均 953 万円）となり、大きな増収となった。これは顎変形症患者の増加によるものが大きいと考えている。全身麻酔手術が増加した分、外来で診療できる時間が減少し外来収入の減少になった。なお、入院と外来の合計で比較すると令和 3（2021）年度は月平均 2,740 万円、令和 4（2022）年度は月平均 2,640 万円でわずかな減少であった。しかし、診療を主務としている診療科医局員が令和 4（2022）年度は 19 人であったのに対して、令和 3（2021）年度は 17 人であったことを考慮すると医局員 1 人当たりの月平均収入は令和 3（2021）年度は 144 万円であったのに対し、令和 4（2022）年度は 155 万円であった。

また、当直業務も 365 日行っており、夜間急患対応、休日診療を含む 24 時間体制で総合診療科を含む全診療科の急患対応を行うことができた。

学生教育面では登院実習を行っている第 5 学年の口腔外科配属学生の教育を主に担当した。まず登院実習として口腔外科外来の臨床の見学、アシスタント、全身麻酔手術の見学、アシスタント以外に毎日 16：00－17：00 まで診療科の医局員が主となりミニレクチャーを行い、それに対するレポート提出を課した。実習最終日には口腔外科科長から全学生に対する口頭試問も行った。実技面では医療面接、抜歯説明、縫合、中央手術室での手洗い補助を必須ケースとして課したが全員がクリアすることができた。

⑤ 歯科麻酔・全身管理科

令和 4（2022）年度の歯科麻酔・全身管理科は、前年度同様、患者さんに対し安全安心な全身管理技術の提供、円滑かつ迅速に手術ができる環境の提供を目標にし、カンファレンスの充実と抄読会および研修会の充実を図り、全身管理の質の向上に努めた。多目的診療室における全身管理症例は、全身麻酔 320 件、静脈麻酔 536 件、静脈内鎮静法 494 件、笑気吸入鎮静法 12 件およびモニター管理 34 件で合計 1,396 件であった。中央手術室における全身管理症例は、全身麻酔 271 件、静脈麻酔 306 件およびモニター管理 3 件で合計 580 件であった。当科の全身管理症例は総計 1,976 件であった。令和 5（2023）年度は症例数の増加および医療安全管理体制のさらな

る充実をめざして努力したい。

⑥放射線・病理診断科

令和4(2022)年度4月から病理診断科では常勤口腔病理医が3人となり、3人の客員教授を含め6人体制となった。病理検体数は1,731件であり、その内訳は、院内組織診検査1,049件(乳腺内分泌外科470件、口腔外科462件、その他117件)、院外組織診検査(口腔のみ)148件、院内細胞診検査(口腔外科209件、乳腺内分泌外科115件、その他73件)、院外細胞診検査(口腔のみ)137件であった。院内組織診検査1,049件のうち、悪性病変は183件で、乳腺内分泌外科は141例、口腔外科は37件、その他は5件であった。また、術中迅速検査は70件であり、乳腺内分泌外科59件、口腔外科11件であった。毎月1回、計12回、口腔癌カンファレンスを病理診断科が主体で実施し、口腔外科、放射線診断科、その他関連する診療科、研修歯科医、臨床実習生が参加した。

放射線診断科では、前年度から引き続き、歯科に関連する全保険症例の単純X線画像および歯科に関連するCT画像の診断をダブルチェック体制で行っている。報告書の件数は単純X線画像9,148件(前年度比1%減)、CT画像4,257件(前年度比4%減)であった。口腔および頸部の超音波検査の件数は722件(前年度比20%減)であった。令和5(2023)年度は画像診断報告書を迅速に提出できるよう努力していく。

⑦口腔リハビリテーション科

令和4(2022)年度は、附属病院では常勤6人、レジデント2人が在籍していた。また診療協力部門として、附属病院では言語聴覚士2人、歯科衛生士2人のほか、看護部、薬剤室等多くの他職種とともに連携協力体制で業務を行っている。

口腔リハビリテーション科医員の専門性に関しては、附属病院では日本障害者歯科学会の認定医が6人である。日本老年歯科医学会は、専門医・指導医・認定医が2人、認定医が1人、専門医・認定医・摂食機能療法専門歯科医師が3人である。日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士の資格を6人が取得している(常勤、非常勤、レジデント含む)。診療内容としては、要介護高齢者や障害児者の摂食指導、口腔がん術後患者の顎補綴治療や口腔衛生管理、さらに在宅や施設への歯科訪問診療も積極的に取り組んでいる。

令和4(2022)年度の診療実績は、初診患者数464人、延べ患者数6,048人であり、そのうち訪問件数は1,275人であった。摂食機能療法は延べ1,017件、摂食嚥下機能検査実績は嚥下造影(VF)検査75件、嚥下内視鏡(VE)検査210件であった。

教育面では、卒後研修(レジデント)コースを設けており、座学と臨床研修、英語文献の輪読会や症例発表を行い、障害者歯科学会や老年歯科医学会の認定医取得を目指すための研修を行った。レジデントコースでは、摂食嚥下障害を専門とする歯科医師の育成に努めている。研究面では、学会発表は4件(老年歯科医学会1件、

日本摂食嚥下リハビリテーション学会 1 件、障害者歯科学会 2 件) であり、また文部科学省科学研究費は、継続 3 件であった。

⑧口腔インプラント診療科

令和 4 (2022) 年度の口腔インプラント診療科は公益社団法人日本口腔インプラント学会指導医・専門医が 2 人、専門医が 3 人、公益社団法人日本顎顔面インプラント学会指導医・専門医 2 人を有する常勤歯科医師 7 人とレジデント 1 人の計 8 人で構成されていた。診療実績はインプラント体埋入手術件数 438 件 (786 本) であり、インプラント手術に関連した上顎洞底挙上術などの骨造成術は 72 件であった。

⑨内科

ア. 運営

常勤内科医 2 人 (日本内科学会総合内科専門医、循環器学会専門医、内分泌学会専門医、医師会認定産業医) に加え、非常勤内科医 4 人 (内科学会、循環器学会、腎臓学会、呼吸器学会、アレルギー学会、睡眠学会、感染症学会、心療内科学会、老年医学会、消化器病学会、肝臓学会、消化器内視鏡学会など)、皮膚科医 1 人 (皮膚科学会) の各学会専門医が内科の外来業務を行っている。業務としては、一般内科、皮膚科 (金属アレルギー検査を含む) の各診療と、歯科術前検査時の各所見に対する診療、入院患者を含む歯科患者の内科合併症への対応、職員・学生の内科疾患に対する診療、健康診断 (人間ドック・特定健診を含む)、いびき・睡眠時無呼吸診療センターにおける医科部門の診療などを担当している。COVID-19 への感染予防管理上、各部署からの要請に沿って、病院敷地内の指定場所にて PCR 検査のための鼻腔咽頭ぬぐい液検体採取を内科医師が実施していたが、本年度中より、外科部門や、看護部の支援をいただけるようになり、各部署の協力のもと、学内感染予防、院内感染予防に微力ながら寄与している。なお、院内感染予防対策の観点から、有熱感冒症状患者への対応は原則停止している。令和 4 (2022) 年度の内科受診者数は 5,260 (前年度 4,757) 人/年で、目標とした 6,000 人/年を下回った。収入額は 4,362 万 380 円 (前年度 4,470 万 9,325 円) と前年をわずかに下回る事となった。収入低下について、来院患者数の減少、健診の縮小などが影響したものと考えている。今後は 6,000 人/年を達成できるよう努力したい。

イ. 学術研究ならびに学術向上対策

臨床・基礎研究の継続、及び各学会学術集会へ参加し、学識向上に努めた。

⑩外科・乳腺内分泌外科

平成 31 (2019) 年 4 月に乳腺内分泌外科が開設されてから 4 年が経過した。所属する 5 人の医師により、附属病院での外来業務、病棟業務、手術に加えて多摩クリニックでの診療を行った。乳腺疾患、内分泌疾患に加えて皮膚科疾患、外傷・一般外科疾患、消化管疾患、整形外科疾患を担当した。令和 4 (2022) 年度の外科外来受診患者総数は 5,000 人／年を超え、昨年度よりも増加した。外来患者数の大幅な増加の理由として令和 3 (2021) 年 8 月に工事を行い、医科外来のブースを 1 つ増設していただいたこと、加えて外来看護師の協力が大きく貢献していると考えている。外来の保険請求金額は右肩上がりで推移しており、令和 4 (2022) 年度は過去最高であった。次年度の外来受診患者総数は 6,000 人／年を目標としたい。入院患者数は目標としていた 2,000 件／年を下回った。原因は化学療法に対する入院制限のためと考える。入院収益は昨年度に比べて約 6,000 万円の減収であった。現在では制限は解除されており次年度は回復するものと信じている。手術総数は外来で行う小手術とマンモトームを加えると 607 件であり、目標としていた 500 件を大きく超えることができた。総保険請求金額は目標としていた 3 億 5,000 万円は超えたが、昨年度の 4 億円には届かなかった。原因は化学療法の入院制限であり、次年度は 4 億円を目標とする。

また、令和 3 (2021) 年 10 月 1 日 (金) より口腔リハビリテーション多摩クリニック内にマンモグラフィを設置し、乳腺内分泌外科外来が開設された。現在、週 1 回、午後に 2 次検診や投薬などを行っており、患者数の増加を模索している。

診療科発足時に目標としていた日本外科学会の基幹施設認定、日本がん治療認定医機構の施設認定、日本超音波医学会の基幹施設認定は一昨年度までに取得することができた。また令和 4 (2022) 年度は、日本乳癌学会、日本内分泌外科学会の専門医修練施設認定を取得した。現在は乳房再建指定施設の認定を申請中である。令和 4 (2022) 年度に本院が医政局より保険請求施設認定許可をいただいた、乳癌の BRCA 遺伝子検査、甲状腺癌の RET 遺伝子検査は、他の医療機関がなかなか資格取得できない中、本院での検査を積極的に施行していく予定である。次年度はコロナ下で日本外科学会より制限されていた「生命・予後に関係のない手術」を順次施行予定である。具体的には施設認定を取り保険償還することができるようになった乳頭乳輪温存胸筋温存乳房切除術、インプラントによる乳房再建手術、自家組織による乳房再建術、乳頭乳輪再建術、陥没乳頭手術、発声機能回復手術、反回神経再建手術などを積極的に施行予定である。当科の診療に多大なご協力を頂いた、大学執行部、附属病院執行部、附属病院のスタッフの方々に深く感謝している。

質の高い臨床研究デザインを作成し、本学の特性を活かした歯科・医科共通のリサーチクエスションに対して impact factor 5 点以上の雑誌に採用されるような臨床研究と基礎研究を積極的に行って行きたいと考えている。各競争的資金獲得には過去の英文論文の数が成否を決める。バリエーションに富んだ患者を数多く診療し、豊富な資金があれば、よい研究ができ、よい成果が質の高い雑誌に採用される確率が高くなる。令和 5 (2023) 年度附属病院については、さらなる外来件数、手術件

数、化学療法施行件数・演題発表数の増加・論文数の増加、多摩クリニックにおいては、乳癌検診の充実を目指して努力したいと考えている。

(10) 診療センター等の活動について

①心療歯科診療センター

心療歯科診療センターは精神的な問題点を抱えた症例の歯科治療にあたっての診断と対応、精神的な要因による口腔症状を表して来院する症例の治療を目的とし、診療内容としては、精神医学的な問題点が疑われる症例の診断と専門病院への紹介、歯科心身症といわれる、舌痛症、口臭症、セネストパチー、咬合違和感症候群等への対応を主な業務としている。

所属員構成は、教授1人、准教授2人、講師2人、助教6人、非常勤歯科医師1人、歯科衛生士3人、歯科技工士1人であり、センター員は総合診療科内の歯周病、歯内療法、補綴の各チームや、口腔外科、歯科麻酔・全身管理科、小児歯科学講座に所属しており、各々の専門性を除外診断に生かしている。

平成29(2017)年4月より、東京都小平市の医療法人晴生会やさか記念病院と連携し、歯科診療室にて、入院および通院患者、勤務者に対して、心療歯科診療センター員を出張派遣し、歯科診療を実施している。なお、やさか記念病院はCOVID-19患者の受け入れ病院である。

教育面では令和4(2022)年度よりルーテル学院大学大学院臨床心理学専攻課程の心理実践実習施設となり、大学院生の実習を行っている。この施設認定は、公認心理士が常勤であることが必須であり、当センターの岡田智雄、軍司さおりが公認心理士資格を持つため可能となった。令和4(2022)年度は1人の大学院生を受け入れ計8日間の実習を実施した。

診療面では令和4(2022)年度の当センターにおける年間来院患者数の合計は632人、1か月平均57.5人であり、うち年間初診患者数は42人で1か月平均3.8人であった(何れも令和5(2023)年3月を除いた患者数)。

②顎関節症診療センター

日本顎関節学会およびDCTMD(Diagnostic Criterion for Temporomandibular Disorders)による診断基準に相当する顎関節症患者および原因不明の身体的訴えを有する患者に対して、除外診断および当該症状に対する治療を行った。治療方法は非侵襲的治療を最優先し、徒手理学療法に特化し、運動療法、認知行動療法などの治療法を必要に応じて構成し対応している。

所属員構成は、教授2人、臨床教授1人、准教授1人、講師3人、助教4人、非常勤歯科医師6人、および歯科衛生士3人の計20人で診療に従事した。診療実績は他科からの依頼を含めて年間初診患者数376人、延べ再診患者数763人であった。

本年度の当センターの専門学会等における主な活動としては、COVID-19の感染拡大のために令和4(2022)年度7月にWeb開催となった日本口腔顔面痛学会主催

口腔顔面痛ベーシックセミナーでは、原センター長が教育講演を行い、オンデマンド配信された。

③顎変形症診療センター

顎変形症診療センターは国内でも数少ない顎変形症に対する外科的矯正治療の専門診療部門である。令和4(2022)年度の初診患者数は259人であり前年度と比べてやや減少したものの高い水準を維持しており、顎矯正手術(中央手術室症例)150件はまだ、コロナ禍の影響等は残るものの前年度より著明に増加し依然として一医療機関としてはトップクラスの実績である。

ア. 研究テーマ

顎矯正手術における骨片固定材料に関する研究

顎変形症患者における睡眠時無呼吸症候群(SAS)のリスク評価に関する研究

イ. 研究業績・講演

研究業績集を参照

ウ. その他

初診患者数	259人
中央手術室手術件数	150件
術式別手術件数	
下顎枝矢状分割術	94件
Le Fort I型骨切り術＋下顎枝矢状分割術	22件
プレート除去	26件
その他	8件

④スペシャルニーズ歯科センター(障がい者歯科センター)

スペシャルニーズ歯科センター(障がい者歯科センター)は、教授3人、准教授2人、講師7人、助教13人、非常勤歯科医師10人、歯科衛生士7人および歯科技工士2人の計44人で診療に従事した。所属員は全員併任となるが、総合診療科8人、小児歯科14人、口腔外科3人、歯科麻酔・全身管理科10人での構成であった。

初診患者数は59例で、COVID-19対策継続中においても前年度の48例を11例上回った。初診時の対応で全身麻酔下での治療の適応が30例、静脈麻酔・鎮静法下での症例が9例で、障害別では複合障害が21例、自閉スペクトラム症が12例、知的能力障害が6例であった。

昨年度に引き続き障害者の歯科診療を行う施設からの紹介が多く、2次3次医療機関として役割を担うことができた。

本年度も多目的診療室における麻酔管理での対応が最も多かった。

⑤歯科人間ドック

歯科人間ドックでは歯科領域における人間ドックとして、口腔内全体を検査して疾患を早期発見すると共に健康の維持・増進を図ることを目的としている。

令和4(2022)年度は12件受診者がおり、うち2人はリピーターである。リピーターの1人は今回が4回目の検診であった。継続して1年半から2年に1回の間隔で検診を実施している。現在、歯科人間ドックは3人の衛生士で対応し、また、歯科検診を担当する総合診療科の先生の予定が合わず、検診の予約日が1、2か月先になっているのが現状である。これに関しては改善すべき喫緊の課題である。

⑥人間ドック

人間ドックは、受診者の希望に合わせて、1日人間ドックまたは2日人間ドックの日程で全身的な健康診断を受けられるよう設定されており、歯科・医科をはじめ各部門の協力のもと、主に個人の間ドック健診受診希望者を対象として健康診断を行っている。

本年度は、1日人間ドック受診料4万9,500円、2日人間ドック受診料6万6,000円で実施した。

本年度の間ドック受診者は1日人間ドック・2日人間ドック合計5人であった。現在の社会状況を鑑み、各学会からの指針などに配慮し、安全に健診業務が実施できるように検査内容を調整している。本院人間ドックにおいては、これまで同様、受診者に健診受診中、7階病棟の特別室を利用いただき、快適に検査が受けられるように対応している。健診内容については日本人間ドック学会人間ドック検査項目に概ね準拠し検査を行っている。

また、C型肝炎ウイルス検査、胃がんリスク判定検査などの特殊血液検査、CT検査や簡易睡眠検査、外部業者委託の腸内フローラ検査、外科・乳腺内分泌外科の協力により乳腺診察、マンモグラフィー検査、乳腺超音波検査などの各種オプション検査を設定し、様々な健診ニーズに対応している。本院人間ドックの特徴として、健診時に歯科健診を希望者に実施している。

また、本院人間ドックは日本人間ドック学会の学会基準である機能評価認定を目標にこれまで同様に各部署と連携をしつつ、健診施設としての充実と社会貢献の一助となることを目指している。

⑦いびき・睡眠時無呼吸診療センター

いびき・睡眠時無呼吸診療センターは、社会的に重要な疾患の1つである閉塞性睡眠時無呼吸症候群のスクリーニング・診断・治療を各部署の協力を得ながら行っている。センター創設者の1人である内科三ツ林裕巳の発案により、一般に医学的には睡眠障害として認知されている当該疾患を、あえて疾患ではない「いびき」をセンターの名称に用い、患者さんにとって受診しやすくなるよう工夫している。疾患のスクリーニングについては医科外来において、内科医師が診療を担当し、医科外来が管理している簡易睡眠検査機器を用いて検査を実施している。精密検査は、

内科医師の指示により必要な患者さんに対し7階病棟の病室を用いて、1泊入院で終夜睡眠ポリグラフィー(PSG)検査を行い、診断を行っている。睡眠検査の実施にあたっては、病棟看護部の協力のもと、非常勤臨床検査技師数名が夜間睡眠検査と解析に従事している。診断結果により、軽症患者ならびに内科的治療不適合症例には総合診療科、矯正歯科、口腔外科、歯科技工室の協力を得て、口腔内装置治療を行っている。中等症から重症症例には持続的陽圧換気(CPAP)装置による治療を内科担当医が医科外来にて行っている。学会活動は日本睡眠歯科学会、日本睡眠学会、日本臨床生理学会などの学会活動に参加している。教育についてはこれまでに、歯科医師卒後研修講習会を複数回実施しており、引き続き歯科診療における睡眠時無呼吸症候群治療の発展に貢献することを目指している。

⑧ 口腔顔面痛センター

口腔顔面痛センターは、非歯原性歯痛・疼痛の診断および治療を行っている。当センターのみでは対応不可能な場合は、専門の医科外来（三叉神経痛の場合は脳神経外科、頭痛の場合は神経内科、頭痛外来、心臓性の場合は循環器科、精神疾患・心理社会的要因によるもの場合は精神科など）への紹介を行っている。さらに病院内外への非歯原性歯痛の啓蒙も行っている。

なお、当センターは日本口腔顔面痛学会の研修施設である。

受診患者の病態としては、筋・筋膜性歯痛（筋・筋膜炎からの関連痛）が最も多く、神経障害性歯痛（三叉神経痛、外傷後神経障害性疼痛）、神経血管性（頭痛からの歯痛、顔面痛、片頭痛や群発頭痛など）がそれに続く。筋・筋膜性歯痛に関しては、本院の顎関節症診療センターと連携し、診療を行っている。

現在、院外の歯科や医科、および院内からの紹介患者、本院ホームページの口腔顔面痛センターを見ての自発来院患者（この場合もかかりつけ歯科医院からの紹介状が必要）、インターネットで「口腔顔面痛」、「非歯原性歯痛」検索しての来院患者（患者の自己判断で紹介状のない場合は、総合診療科初診で歯原性疼痛のスクリーニングを行っている）も増加している。

令和4（2022）年度もコロナ禍の影響を受けたが、受診患者数は増加している。口腔顔面痛という病態が広く一般にも認知されてきたため、コロナ禍でも来院患者数が増加したと考える。

⑨ スキルラボ

本年度も昨年に引き続き COVID-19 の拡大に伴い PCR 検査室として使用が続いている。

本年度からは、新たに5階に5階スキルラボとしてユニットを整備し、稼働を始めた。5階スキルラボは、主に学生実習に用いており、今年度は延べ650人の使用があった。5階スキルラボは、これからも学生実習のみならず研修歯科医や医局員の研修の場としての整備を行っていく。

⑩救命救急教育委員会

令和 2（2020）年度、令和 3（2021）年度はコロナ禍でのカリキュラム変更にて救命救急研修は中止となったが今年度は新たな試みとして E-learning での救命救急に関する知識習得と遠隔操作でのスキルチェックを行える RQI カートシステムを導入して臨床研修歯科医全員に一次救命救急研修を行った。このシステムは American Heart Association(AHA)の BLS Healthcare Provider 認定プログラムに準拠しており、今年度の臨床研修歯科医 72 人全員が一次救命救急研修プログラムを修了して AHA-BLS Healthcare Provider の資格を取得した。

⑪診療情報管理室

ア．病院医療情報システムの管理運営

病院医療情報システムの計画立案と管理運営を行っている。また記載・入力内容、退院時要約の照合と監査を実施し、必要に応じて利用者への指導を実施している。

イ．入院患者の診療録の保管および貸し出し

令和 5（2023）年 3 月現在、電子カルテ移行前の 1 万 1,227 件の入院診療録をアリバイ管理の下に保管し、必要に応じて貸し出している。

ウ．入院患者の疾病コードへのコーディング

入院患者の病名を ICD10 へコーディングしている。令和 4(2022)年度は 1,246 件のコーディングを行い、累計は 1 万 6,885 件になった。

エ．入院患者の処置に対する処置コードへのコーディング

入院患者の処置を ICD9CM へコーディングしている。令和 4（2022）年度は 621 件のコーディングを行い、累計は 1 万 7,925 件になった。

⑫医療相談室

医療相談室への電話相談は、本院の受診を希望している方、他の歯科医療機関に通院している方、患者紹介を検討している歯科医師からと様々である。そのため相談員は各分野から専門性に長けた方に依頼している。その中でもかなり高度な相談内容で、相談員では対応できない場合は、相談内容に詳しい専門の方にお問い合わせする場合もある。また、電話のみの解決が困難な場合は、本院への受診を勧めている。

令和 4（2022）年度の医療相談室の相談員数は 27 人登録され、電話相談件数は 30 件（例年平均約 200 件程度あるが昨年 40 件に続き今回この減少は COVID-19 の影響と考える）程度であった。

相談内容としては、本院で行われている治療内容、新しい治療法や薬剤に関するインターネット上の記事の正否、紹介状の宛名をどこの診療科にすればよいかについて等の問い合わせがほとんどを占めていた。

⑬ 中央手術室

令和 4（2022）年度中央手術室の手術件数は、口腔外科 125 件（前年度 111 件、112.6%増）、顎変形症診療センター149 件（前年度 107 件、39.2%増）インプラント診療センター306 件（前年度 136 件、125%増）および外科 124 件（前年度 169 件、26.7%減）の総計 704 件（前年度 523 件、36.4%増）であった。なお小児歯科とスペシャルニーズ診療センターの手術は昨年度も病棟における密回避の目的で中央手術室での手術実施は無かった。

また、運営管理を円滑に行うために中央手術室管理運営委員会 12 回と手術入れ会議 12 回を開催した。

（1 1）診療協力部門の活動について

① 歯科技工室

令和 4（2022）年度の委託技工件数は 1 万 6,849 件で、一般の技工に加えインプラント診療科、いびき・睡眠時無呼吸診療センター、口腔リハビリテーションセンター、スポーツマウスガード外来などと連携し専門性の高い特殊装置の製作や診療補助にあたった。そのほか、例年行っていた歯科医師臨床研修の歯科技工ユニット（必修・選択）、生命歯学部第 1 学年の病院医療概論技工体験実習、生命歯学部第 5 学年のローテーション実習、臨床実習生、短期大学専攻科指導のなどの教育活動を行った。

③ 歯科衛生士室

令和 4（2022）年 4 月～令和 5（2023）年 3 月までの保険算定処置の件数は、歯科衛生実地指導料 3,914 件（昨年度 3,158 件）、機械的歯面清掃処置 3,778 件（昨年度 2,540 件）、訪問歯科衛生指導料 63 件（昨年度 27 件）、居宅療養管理指導費 421 件（昨年度 390 件）、歯科訪問診療補助加算 934 件（昨年度 737 件）、在宅等療養患者専門的口腔衛生処置 449 件（昨年度 352 件）、周術期等専門的口腔衛生処置 395 件（昨年度 233 件）であった。入院患者の口腔ケア件数は 15 件（昨年度 13 件）であった。勉強会、会議等は COVID-19 感染拡大の影響を考慮し開催を見送った。

③ 放射線検査室

放射線検査室では 4 人の診療放射線技師で放射線検査受付業務、画像データ入出力業務および歯科・医科の X 線撮影業務を行っている。

令和 4（2022）年度の延べ患者数は 2 万 9,546 人であった。内訳は、口内法撮影 1 万 3,003 枚、口外法撮影 1 万 8,599 件、一般撮影 2,831 件、病棟・手術室でのポータブル撮影 120 人、CT 撮影 4,208 件、マンモグラフィーを 2,092 件、X 線 TV 撮影 7 件、人間ドック 6 件、放射線・病理診断科による歯科用 CBCT 撮影 1,772 人で

あった。また、画像情報提供用 CD・フィルム作成 743 件、外部画像の取り込みを 741 件行った。

④臨床検査室

令和 4（2022）年度に行った検査は次のとおり。

ア．血液・尿検査部門（項目数）

（ア）生化学 10 万 1,975（イ）血液一般 2 万 6,363

（ウ）凝固系 5,944（エ）血清学 1 万 1,708

（オ）特殊検査 1 万 4,701（COVID-19 947 を含む）

（カ）尿一般 1 万 7,129

イ．輸血関連検査部門 296

ウ．生理検査部門（件数）（ア）心電図 1,489（イ）超音波（医科のみ）2,014

（ウ）呼吸機能 1,014

エ．病理検査部門（件数）（ア）組織診 1,248（イ）細胞診 534

COVID-19 の PCR 検査を始めとして、どの分野においても著明な増加となった。

⑤言語聴覚士室

言語聴覚士室は、言語聴覚士合計 3 人で構成され、うち 2 人が附属病院専従、1 人が口腔リハビリテーション多摩クリニック（以降多摩クリニック）専従の形で勤務した。昨年度まで育児休暇を延長していた多摩クリニックの 1 人が退職したため、1 人欠員の形で診療を行った。

本年度は、年間を通しての患者数は、附属病院で 2,385 人（前年度 2,407 人）、多摩クリニックで 1,085 人（前年度 1,255 人）であり、脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅱ）、摂食機能療法、自費診療などを含む総単位数が、附属病院は 3,593 単位（前年度 3,749 単位）、多摩クリニックは 2,566 単位（前年度 2,946 単位）であった。初診は附属病院で 148 人（前年度 115 人）、多摩クリニックで 6 人（前年度 18 人）であった。附属病院では患者数、総単位数のいずれも前年度と同程度である。多摩クリニックは言語聴覚士が 1 人欠員になっていることから、初診はほとんどとおらず、患者数・単位数ともに前年度と比べてやや少ない実績となった。COVID-19 の折に始めたオンライン診療は、遠隔地に在住する患者に便利であることがわかり、附属病院では年間 22 件の診療が実施され、これは今後も継続すると予測される。

口腔リハビリテーション科と協力体制にあり、日常の臨床のほか、カンファレンスを週 1 回開催し、連携を図った。口腔リハビリテーション科におけるレジデントや研修歯科医、歯科衛生士の専攻科の研修において講師等で協力した。

社会的な活動では、多摩クリニックで、小金井支援学校への教育支援員としての活動がこれまで同様に実施された。また、一般社団法人東京都言語聴覚士会のそれぞれ代表理事（会長）、事務局、失語症者向け意思疎通支援事業委員会の部員としての活動も1年を通して行った。地域の住民、専門職を対象とした講演会の講師を担当し、言語聴覚療法の対象に関する知識の啓発を行った。さらに、本院で開催している頭頸部がんの患者会は対面形式で行うことが難しいため、今年度もオンライン形式で開催し、患者支援も継続して行った。

教育面では、言語聴覚士の養成校の学外実習担当施設として協力しており、今年度は合わせて4校の臨床実習を委託された。言語聴覚療法の資質向上と他機関との連携を目的に公開している月1回の勉強会は、オンラインで継続して12回開催した。

研究面では、構音障害、発達障害、当事者や家族の支援、高次脳機能障害など多彩な方面に関する研究を行った。日本言語聴覚学会、日本摂食嚥下リハビリテーション学会、日本リハビリテーション医学会で発表および教育講演を行った。（文中の「単位」とは、歯科診療報酬点数表による最短診療時間での診療単位を示し、脳血管疾患等のリハビリテーションは1単位が20分、摂食機能療法は30分で1単位としている。）

（12）多摩クリニックの活動について

多摩クリニックは、言語・摂食・嚥下障害を有する乳幼児から高齢者まですべての年代の患者を対象にリハビリテーションを行う診療機関である。平成25（2013）年度は多摩クリニック口腔リハビリテーション科であったが、平成26（2014）年度より附属病院診療部門となり、多摩クリニックに医員を派遣する体制となった。令和4（2022）年度の多摩クリニック口腔リハビリテーション科の医員は、常勤11人、非常勤歯科医師4人、レジデント8人が在籍していた。また診療協力部門として、言語聴覚士1人、歯科衛生士6人、衛生士レジデント2人、管理栄養士1人が在籍していた。多摩クリニックには口腔リハビリテーション科のほか、附属病院から小児歯科、口腔外科、歯科麻酔・全身管理科、矯正歯科、乳腺内分泌外科、生命歯学部から歯科麻酔学講座の応援により、スペシャルニーズ歯科、口腔外科、矯正歯科相談、乳腺内分泌外来を実施することができた。

多摩クリニックにおける資格獲得の状況として、歯科医師の日本障害者歯科学会は、専門医・指導医・認定医2人、指導医・認定医1人、認定医8人である。日本老年歯科医学会は、専門医・指導医・認定医・摂食機能療法専門歯科医師が3人、専門医・認定医・摂食機能療法専門歯科医師が3人、認定医・摂食機能療法専門歯科医師が1人、認定医が3人である。日本放射線学会専門医・認定医・歯科用CBCT認定医1人、歯科衛生士では障害者歯科学会指導歯科衛生士1人、日本歯科衛生士会認定歯科衛生士1人、障害者歯科分野2人、摂食嚥下リハビリテーション分野2人、医科歯科連携・口腔機能管理分野1人である。

また、日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士は、歯科医師・歯科衛生士あわせて17人である（常勤、非常勤、レジデント含む）。管理栄養士は、日本栄養士会摂食嚥下リハビリテーション栄養専門管理栄養士1人、日本栄養士会在宅訪問管理栄養士1人である。

多摩クリニックの特徴としては、在宅要介護高齢者への歯科訪問診療が非常に多いこと、また障害児の摂食指導と言語訓練の外来件数が多いことがあげられる。小児在宅の訪問診療にも、地域連携の中で取り組んでいるところである。

診療実績では、初診患者数612人、延べ患者数1万4,563人であり、そのうち訪問件数は6,284人であった。摂食嚥下機能検査実績は嚥下造影(VF)検査680件、嚥下内視鏡(VE)検査1,232件（外来・訪問）であった。リハビリテーションの摂食機能療法は6,043件（外来・訪問）であった。

教育面では、第1学年、第2学年編入生、第5学年の見学実習を多摩クリニックで行っている。第1学年は、1日間、第5学年は前期2日後期4日の6日間である。今年度は、緊急事態宣言解除後、十分な感染予防策を維持した状態での歯科治療、VEを含めた摂食嚥下評価等、すべての治療内容を実施していた。第5学年に関しては、ローテーション実習期間に訪問診療に同行させ、地域連携の現場を体験させることができた。また、介護老人保健施設におけるミールラウンドの体験をすべての学生ができるよう、VRでの実習も開始している。

また、レジデントコースを設けており、座学と臨床研修、英語文献の輪読会や症例発表を行い、障害者歯科学会や老年歯科医学会の認定医取得を目指すための研修を行った。

多摩クリニックにおいて、例年行っている研修会に関して本年度は、全7回であり、オンライン形式が5回、実習を含む対面での研修会を2回開催した。内訳は医療・介護職向け研修会（5回）の他、子どものための筋刺激訓練法（1回）、障害児の摂食機能訓練（1回）を開催した。さらに、地域での食支援として、多摩小児在宅歯科医療連携ネットの活動を継続し、研修会を通じて地域の食支援に寄与している。

研究面では、多摩クリニック勤務の口腔リハビリテーション科医員7人が科学研究費助成金を受け研究を行った。

（13）その他の事業

①総合診療科の再編

昨年度まで総合診療科1〈歯内療法・保存修復〉と総合診療科2〈歯周治療・補綴治療〉のフローアごとの2科体制であった。

令和4（2022）年4月より、総合診療科1〈歯内療法〉、総合診療科2〈保存修復〉、総合診療科3〈歯周治療〉、総合診療科4〈補綴治療〉の4科体制に再編し、診療体制の専門性、指揮系統の迅速化を図った。

②病院機能評価3回目更新受審

前回、平成 29 (2017) 年 6 月の認定有効期限が令和 4 (2022) 年 8 月までと迫っているため、事前に病院機能評価準備委員会を立ち上げ、第 1 領域から第 4 領域までの部会を設置し、内川病院長、松野副院長を中心に全職員が一体となって医療の質の向上、医療の更なる充実、歯科医療者の育成に取り組み、令和 4 (2022) 年 7 月 14・15 日の 2 日間にわたり更新審査を受診した。

その結果は、10 月 7 日付で審査通知が届き、改善要望事項の該当はなく、無事に更新認定を得ることができた。

③特定共同指導（歯科）

令和 4 (2022) 年 9 月 13 日付で厚生労働省、関東信越厚生局及び東京都からの通達により、10 月 13・14 日の 2 日間にわたり特定共同指導（歯科）が実施された。初日は患者 50 人分の診療録に該当する担当医へ指摘事項による指導、2 日目は講評が行われた。この講評を受け、すぐに翌日から指導内容の取りまとめに入り、院内の改善指導の強化を図った。

令和 5 (2023) 年 2 月 3 日付で結果通知が届き、再指導（個別指導）の結果を踏まえ、改善報告書を提出し返還金の作業を行った。

④東京都立入検査

当初は、令和 3 (2021) 年 4 月 13 日付で東京都立入検査の通達があり、立入検査に伴う病院自主管理チェックリストを提出していたが、COVID-19 の都内感染状況を鑑み、昨年度は実施されなかった。

改めて、令和 4 (2022) 年 6 月 29 日付で通達（8 月 19 日実施）があり、松野副院長を中心に再度準備に入ったが、昨年同様の理由で再延長となり、令和 4 (2022) 年 10 月 17 日（月）午後 1 時より、ようやく東京都立入検査が実施された。

その結果は、12 月 6 日付で結果通知が届き、文書指導事項による軽微な改善は指示されたが、指摘事項の該当はなく無事に終了した。

⑤特定共同指導（歯科）後のワークショップの開催

令和 5 (2023) 年 1 月 18 日に特定共同指導（歯科）後のワークショップを診療科長、医長及び若手医員も含め参加者 30 人で開催した。

午前は小林保険指導委員長による講義（求められるカルテ記載）、午後は蓮見客員教授による講義（歯科医師を守る診療録記載）の後、グループ作業に入り、診療録記載の目的の再確認・適切な診療録記載を実践した。

Ⅲ. 生命歯学研究科

1. 入学者および在籍学生数

(1) 生命歯学研究科入学者について

令和4(2022)年度には8人の新入学生が入学した。令和5(2023)年度の入学試験では、1次募集合格者6人と2次募集合格者2人の合計8人を選抜した。

(2) 在籍学生について

(令和4年4月1日現在)

研究科	専攻	入学定員 (人)	収容定員 (人)	在籍学生数(人)			
				一般	社会人	留学生	計
生命歯学 研究科	歯科基礎系	9	36	14	0	0	14
	歯科臨床系	9	36	22	0	0	22
	計	18	72	36	0	0	36

2. 入学希望者への説明会

研修歯科医に対して、アドミッションポリシーおよび本研究科での学習内容についての説明会を6月に実施した。また、専攻主科目紹介資料を大学院のウェブサイト上に公開し、入学希望者が各科目の指導教授と容易に連絡を取れる状況を整備した。

令和5(2023)年度の本研究科入学者は前年度と同じく8人であり、入学者数は横ばい状態となっている。今後も入学者の獲得に向けて、一層の努力が必要である。

3. 奨学生の選考

一般選抜入試により入学した大学院生に対し、本学が独自に創設した奨学金制度(返還義務なし)を継続し、本研究科一般選抜奨学生5人を選考した。さらに、日本学生支援機構奨学生第1種1人を選考し、就学維持に必要な経済的支援を行った。また、他の奨学制度についても随時募集を行い、入学後の学修への取り組みを積極的に支援している。

4. 大学院セミナー

本研究科では、主科目、副科目、選択科目に加えて、毎月「大学院セミナー」を開催し、生命歯科学の多様な側面をカバーして新しい知識を獲得するための多角的かつ包括的な学習環境を提供している。

5. 研究中間発表会

令和4（2022）年度大学院研究中間発表会を4月21日（木）22日（金）に開催した。第3学年大学院生9人と第4学年大学院生2人が発表し、活発な質疑応答が行われた。発表会における研究科委員からの講評は発表者と指導教授に提供され、論文作成の一助とされた。

6. 学位授与状況

本研究科において、令和4（2022）年度には7人が学位記を授与された。これらすべての学位論文は英文学術雑誌に受理され、そのうち6誌はインパクトファクター付き国際誌である。

IV. 新潟生命歯学部

1. 学部の概要

(令和4年5月1日現在)

学校名	学部・学科名	開設年度	修業年限 (年)	募集人員 (人)	在学者数 (人)
日本歯科大学	新潟生命歯学部・ 生命歯学科	昭和47年	6	70	389

2. 令和4年度入学試験関係

(1) 選抜結果について

令和5(2023)年度入学試験において、入学者46人(募集人員70人)のうち、総合型選抜入学試験(I期、II期計)で12人(募集人員約16人・志願者17人)、学校推薦型選抜入学試験で9人(募集人員約10人・志願者9人)、一般選抜前期入学試験で17人(募集人員約30人・志願者129人)、共通テスト利用前期入学試験で1人(募集人員約10人・志願者56人)、一般選抜後期入学試験で7人(募集人員若干名・志願者22人)、共通テスト利用後期入学試験で0人(募集人員若干名・志願者4人)を選抜した。

また、編入学前期試験は1人(募集人員若干名・志願者2人)、編入学後期試験では1人(募集人員若干名・志願者2人)を選抜した。

(2) 学生募集に対する新潟生命歯学部の取り組み

① オープンキャンパスの開催

令和4(2022)年度の新潟生命歯学部のオープンキャンパスは、COVID-19の感染対策として、インターネットを利用したオンライン型オープンキャンパスと対面型オープンキャンパスのハイブリッド形式で、7回(6月12日(日)、7月9日(土)、8月19日(金)、9月18日(日)、10月8日(土)、11月5日(土)、12月4日(日))開催した。対面型では、感染状況に応じて都度対応を検討し、実施した。参加者には、宿泊提供(対面型のみ)および受験料1回免除等の配慮をし、受験希望者の参加を促した。

また、学費が半額になる特待生となれる機会を増やすため、チャレンジ試験(特待生選抜試験)の案内もあわせて行った。

なお、これらのオープンキャンパスは入試広報委員会がその企画・実施を担当した。

② 教員および職員による高校・予備校訪問

基本的には講師以上の教員を中心に、全国の高校および予備校訪問を実施している。この訪問は平成21(2009)年度から実施しているが、継続的訪問が効果を見せており、令和4(2022)年度は、COVID-19の感染状況を注視しながら実施した。

③イベント併催型入試相談・説明会への積極的参入

業者開催の入試相談・説明会に積極的に参加し、模擬講義や体験実習ブースを併設したイベント併催型の入試相談・説明会にも参加した。生命歯学部および両短期大学とともにオール日本歯科大学として対応した。

④新潟生命歯学部・新潟短期大学共催オープンキャンパスの開催

令和4(2022)年度は、通常開催しているオープンキャンパスとは別に、「ハノシゴト フェスティバル 2022」を新潟生命歯学部・新潟短期大学共催で7月30日に開催した。昨年度好評だった「ハノシゴトオープンキャンパス」に続く企画として、歯科に関わる職種・仕事を幅広く広報し、歯科の重要性を認知してもらえるよう努めた。また、この企画と同一の趣旨で作成した「ハノシゴト」ムック本も、引き続き高校訪問、入試説明会等に用いた。

3. 教育

(1) カリキュラム改革

令和4(2022)年度第1学年～第4学年までの授業は、全て一貫したカリキュラムで前学期 Web 授業を実施した。さらに後学期は、第1学年と第4学年が対面授業で、第2学年、第3学年はクラスの人数を半分ずつ2つの教室に分けて行う Web と対面のハイブリッド授業を実施した。一方、実習は全て感染症拡大の予防に留意しながら対面で行った。

第6学年の講義については、4月から11月(本試験③)まで一貫したカリキュラムでクラスの人数を半分ずつ2つの教室に分けて行う Web と対面のハイブリッド授業を実施した。

第2学年、第3学年と第6学年のハイブリッド授業は、感染症の感染リスクの低減と学生への不利益に配慮して、座席指定とし、さらに二週間毎に教室の入れ替えと座席の移動を行った。

平成29(2017)年度より、第6学年進級時の基礎学力、特に基礎系科目の持続的学習を促すことを目的に、第5学年総合試験Ⅰを9月末に実施しており、令和4(2022)年度においても実施した。第5学年(病院実習中)の基礎学力(基礎・臨床)強化については、令和4(2022)年度も、全日臨床実習を11月末で終了し、以降、Web授業を行った。その後、総合試験Ⅱを実施した。学年修了時の進級審査は、総合試験Ⅰと2月に実施した総合試験Ⅱの結果を用いて行った。なお、令和4(2022)年度の第5学年におけるTBL(Team Based Learning)は、感染拡大に留意しながら実施した。

第4学年で実施した共用試験 CBTの評価については、平成30(2018)年度より進級基準を72点以上とし、令和2(2020)年度からIRT標準スコア500以上とする新たな基準を設け、再試験は実施しなかった。

第2学年、第3学年の総合試験については、CBTに準じたAタイプ(5つの選択肢から1つの正解を選ぶ形式)に加えて、第2学年はX2タイプ(5つの選択肢から2つの正

解を選ぶ形式)、第3学年はX2～XXタイプ(5つの選択肢から複数の正解を選ぶ形式)を出題した。

また、当初、複数選択問題に対する苦手意識を補うための第4学年総合試験の実施の検討に関して、令和6(2024)年度の共用試験の公的化に伴い、新たな進級基準として採用することを視野に入れて検討した。

(2) 留級者に対する対応

留級者オリエンテーションから開始する留級者の指導については、クラス主任・副主任との面談等を繰り返し継続した。第6学年での留級者、除籍者の保護者に対する説明会は、COVID-19感染拡大予防の観点から留級者の保護者ではなく留級者本人に対し実施した。

(3) 第1学年・第2学年におけるサポーター制度の継続

第1学年および第2学年に実施しているサポーター制度について、COVID-19の感染予防の観点からWebやメール等を活用し、個々の学生状況の把握に努めた。また、サポーター会議を各学年で開催することで、学生の悩み、問題等現状の情報をより詳細により共有できるよう配慮し、学生指導に活用するとともに学年主任・副主任も同席し情報を共有した。

(4) 早期三者面談の実施

令和4(2022)年度の早期三者面談は、COVID-19感染拡大予防のため実施しなかったが、各学年のクラス主任・副主任から学生の状況について、保護者に報告とその対応について説明を行った。

(5) 保護者説明会の開催

令和4(2022)年度の教務部・学生部を中心とした保護者説明会は、3月最終週から4月上旬までにWebで実施した。

なお、新入生の保護者に対しては入学式後にWeb開催で行った。

(6) 成績分析システムの導入

令和3(2021)年度に、成績分析システムTableauを新たに導入した。学生の入学から在学期間を通じた成績の推移、学年毎の成績分布等の経時的・網羅的な分析を目的としている。令和4(2022)年度は、新たな分析項目について検討し、令和5(2023)年度の本格運用に向けて調整を行った。

(7) 富士見・浜浦フェスタの開催

両生命歯学部第4学年が一堂に会して、相互の交流と両生命歯学部後半の3年間を充実したものとすることを目的として、平成24(2012)年度から富士見・浜浦

フェスタを開催している。令和 4 (2022) 年度の富士見・浜浦フェスタは、COVID-19 の国内感染拡大の継続の懸念、感染予防の観点から実施を中止とした。

(8) 教員のFDについて

令和 4 (2022) 年度教員の FD として下記事項を計画、実施した。

- ① 全教員参加の教育フォーラムの開催 (令和 4 (2022) 年 9 月)
- ② 教員を対象とした問題作成のためのワークショップの開催(令和 5(2023)年 2 月)
- ③ 指導医講習会 (令和 5 (2023) 年 2 月)

(9) 実習室統廃合および教室確保の検討

第5学年の授業の本格化および第6学年留級者の補習・自主学習に伴う教室の不足が予想されるため、教養系実習室を教室に改修することや、その結果、実習室がなくなる教養系実習は基礎系実習室を共同で使用できるよう検討を重ね、令和5(2023)年度からの教養系実習室と基礎系実習室の共同利用に向けて調整を行った。

教養系実習室の改修については、引き続きカリキュラム構成を含め検討を行った。

(10) 自習場所の通年確保等について

第6学年以外の自習に使用する教室等について令和4 (2022) 年度は、COVID-19 の拡大と感染予防の観点から、基本的には開放しなかった。一方、学生が教室の使用を希望する場合、試験前に限定し、23時までの教室の開放と、後学期には新たに設置した学習室 (開けゴマ) の使用を許可することで学習環境の向上を図った。

(11) 認知症患者とのふれ合いの場の創設

外来および認知症患者への対応を念頭に、平成 28 (2016) 年度から第 1 学年のプロフェッションの授業で認知症サポーター養成プログラムを実践し、第 1 学年次に認知症サポーターのオレンジリングを配布している。また、平成 30 (2018) 年度より、認知症患者と学生が触れ合うことを目的に、「認知症カフェ」を学内で定期的で開催している。なお、担当は学内の認知症キャラバン・メイトおよび訪問歯科グルンドとし、講堂入口の喫茶室で実施しているが、令和 4 (2022) 年度は、COVID-19 の国内感染拡大の継続の懸念、感染予防の観点から実施を中止した。

また、以前から学生の希望の多い訪問歯科診療の同行・見学についても、病院実習前の第 1 学年～第 4 学年を対象に、夏季・春季休暇中の希望者への対応を検討したが、令和 3 (2021) 年度に引き続き実施しなかった。

4. 学生支援

(1) 新入生オリエンテーション合宿の実施

新入生オリエンテーション合宿の目的は、医療人を志す 6 年間の大学生活を充実させるために、建学の精神を理解して自身の目標を再認識すると共に、倫理観と規

則を遵守する常識を兼ね備えた歯科学生に相応しい態度を身に付けることにある。

しかし、年々、学生への説明事項が増えていることから、近年は1泊2日の日程で学外施設にて実施していた。令和4(2022)年度も同様に計画していたが、COVID-19感染対策として開催場所を学内の講堂に変更し、日程を入学後と対面講義再開前の時期に分け4月、9月に各1日で実施した。

また、第2学年、第3学年を対象に、同目的でワークショップ形式で開催した(第2学年:7月26、27日、第3学年:7月28、29日)。

(2) 第2学年～第6学年進級オリエンテーション、留級者オリエンテーションの実施

新年度開始にあたり、教務部・学生部からの教育概要、学生指導概要をガイダンスするとともに、特に留級者に対しては別時間に進級に向けた意識付けを目的とした内容の時間を設けた。

ただし、COVID-19の感染予防対策の説明・指導を含めて実施するため、年度始めの講義開始前と本試験前に説明内容を分け、段階的に必要な周知を実施した。

また、学生部からは、学生相談室の利用方法に関する説明、各種奨学金および学生総合保険申請に関する説明、防犯および防災、違法薬物対策に関する説明、国民年金加入等に関する資料の配布(第2学年、第3学年)を実施した。新潟県消費者生活センターが作成する、近年の訪問販売やネットセールスでの県内被害事例を紹介した資料を全員に配布し注意喚起を図った。

(3) 第1学年クラス副主任の繰り上げ

平成21(2009)年度から導入した副主任の持ち上がり制度については、第2学年以上の学年でも継続し、前年度から継続的に学生を把握している教員によるシームレスな指導が可能となり、最短年限卒業率の向上を目指している。

(4) 合同合宿の開催支援

東京・新潟のクラブ間の相互交流や親睦を目的として、合同合宿活動が例年5月の連休期間に開催されている。令和4(2022)年度も、4月末からの4泊5日として計画準備したが、COVID-19感染予防対策の一環として中止した。これに並行して次年度以降の合同合宿の再開について、生命歯学部学生部との間で協議し、具体的再開計画、開催地の検討等を実施した。これらに関する全般的な支援は学生部が中心となり対応した。

(5) 薬物犯罪に関する教育講演会開催等による指導強化

第1学年を対象に「青少年の薬物犯罪について」と題して、新潟中央警察署専門警察官による教育講演会を夏季休暇前に例年開催している。

近年、青少年層を中心に大麻や覚醒剤等の違法薬物使用が蔓延し、年々低年齢化していることから大きな社会問題となっており、本学においては、令和4(2022)年

度も内容をより充実し、他学年や新潟短期大学生にも聴講を呼びかけて実施を予定していた。

しかし、COVID-19の感染拡大の影響により、県警の教育講演は全てWeb配信形式に変更され、それを受けて本学も年度末までに各自で視聴する方式に実施方法を変更した。

各学年のクラスミーティング時においても、学生部長やクラス主任を中心に薬物問題に関する学生への注意を喚起するよう指導を強化した。

(6) 学生健康管理、COVID-19感染予防対策の実施、B型肝炎感染等の予防対策の実施、保健指導の強化

令和4(2022)年度においても、大学院を含む全学年の学生を対象とし、定期健康診断をCOVID-19感染予防対策のうえ、6月末までに分散実施した。また、例年B型およびC型肝炎ウイルス抗体確認とB型陰性学生へのワクチン接種について、本学新潟病院医科部門の協力を得て実施しているところだが、COVID-19の感染拡大のため、コロナワクチンの接種を優先することとし、時期を後期にずらして接種を実施した。

COVID-19の予防対策としては、学内施設利用のゾーンニング、手指消毒および体温測定機材の配備、換気用機材の配備、環境消毒(アルコール清拭や噴霧等)備品の配備、教室、学食等の座席使用制限、学食の全食卓へのアクリル板の設置等の対策を実施した。

学生部やクラス主任、クラブ顧問の健康観察で体調不良等の問題点が確認された場合も、新潟病院医科部門への受診勧奨を行った。

本館1階保健センターの面談室にてカウンセリングおよび医療相談を実施しているが、その機能を拡充し保健指導の強化を図った。臨床心理士との情報共有を強化し、症状に応じて休養や受診勧奨などの指導を行った。教員と臨床心理士間の連携を促進し、学業の障害となるリスクの可及的低減を図った。

(7) 早期カウンセリングの実施

近年、大学生のストレス対応能力の低下が社会問題化しており、COVID-19の感染に対する不安を訴える事例も増加している。本学でも臨床心理士によるカウンセリング実施日を、学年後期には週1日から週2日に増やし対応してきた。臨床心理士はクラス主任会議やサポーター会議に出席するとともに、第1学年、第2学年でのメンタルヘルスに関する一部の講義も担当し、学生との近接性の確保に配慮している。必要に応じて担当教員や保護者との面談も実施し、予防的カウンセリングを可能とした。また、面談受付システム(QRコードから携帯電話にて簡単に面談予約が可能)を活用し、悩みを持つ学生に早期にカウンセリングを実施するとともに、自己認識の手段として臨床心理テストの体験も可能とした。必要に応じて電話での相談対応や、新潟市内の精神保健・医療機関とも連携し、学生の希望に応じた重層的な支援

を実施した。

(8) 緑館（クラブハウス）の改修、体育館・グラウンド利用向上に関する支援の実施

建設後約 30 年が経過し、学生から修復希望が出ていた緑館（クラブハウス）の全面改修工事を令和元（2019）年度に実施した。令和 4（2022）年度中に COVID-19 感染対策に配慮した供用体制の検討を完了し後学期から部活ごとに室内環境の整備に着手した。並行して感染予防に配慮した部活動の方法や将来的な部活動の活性化を協議し、多様な使用形態が選択できるように協議を実施し、感染対策に配慮した体育館各施設の使用方法の検討も実施した。体育館のトレーニング機材の更新や既存機材のメンテナンスも実施し、基礎体力向上を目指した使用での利便性の向上を図った。

グラウンドについては、平成 29（2017）年度にグラウンド整備計画に基づき、硬・軟テニスコート 4 面とハーフラグビーコート兼 8 人制サッカーコートとして人工芝ピッチ、短距離走スタート練習用のハードコートトラック 50m 走路 3 レーン、およびグラウンド全面を適正照度に保つ LED 照明、全周をカバーする防護ネット等を整備した。令和 4（2022）年度も引き続き管理を実施し、運動部では新入生を対象とした部活デモンストレーションを実施し施設使用方法等の説明を職員が行った。保守体制については、グラウンド系部活で組織したグラウンド保守管理委員会を中心に、保守管理の向上についての検討を実施した。

(9) 運動部の活動支援の実施

近年、運動部所属学生の減少により、高学年学生の指導負担の集中等が問題化している。それに加え COVID-19 感染拡大の影響により、基本練習や対外試合の実施は著しい影響を受けている。体育系部活の活動継続対策の一環として、希望する学生が新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター（ビッグスワン内の県施設）が実施する競技力向上相談・指導を受けられるよう学生部が仲介し、基礎的なトレーニング指導を受けられる環境を整備した。

令和 4（2022）年度も、COVID-19 の感染拡大により少人数での基礎練習のみ事前許可制で部活動を再開し、競技力の維持・向上に向けた支援を各部顧問と学生部が連携して実施した。

(10) 学生の社会活動参加等に対する支援

近年、地域行政が学生を対象として地域交流イベント等を企画する事例が増加している。本学においても、新潟市大学連携事業等に学生を派遣してきたが、今後は COVID-19 の感染予防もふまえた活動の形態を検討する必要がある。感染対策に配慮した地域活動については、新潟市とも協議しながら、必要に応じて学生部を中心に学生の支援を実施した。

また、従来から参加を継続してきた SCRP(Student Clinician Research Program)

の参加は令和 3（2021）年度に参加を再開したが、令和 4（2022）年度は COVID-19 感染拡大により参加を辞退した。学生の研究推進体制の維持には学生部が支援を実施した。歯学会大会や各専門学会でも発表を行う学生が増加していることから、必要に応じて学生部がこれら支援を実施した。

（1 1）学生の孤立予防に向けた学生会・学生部の共同支援活動の実施

コロナ禍以降、学生の孤立予防対策の重要性が高まってきた。このため学生部と学生会は連携して支援活動を協議し、Web 新入生歓迎会、Web での部活動支援、物価高騰緊急支援事業を活用した弁当や食品配布等を実施した。弁当配布に関しては、事務職員、学食職員とも連携して応援メッセージ付きオリジナル弁当の配布を実施した。

5. 学生活動

（1）姉妹校交換学生および訪問学生

令和 4（2022）年度姉妹校交換学生交流事業は、カナダ・ブリティッシュ・コロンビア大学歯学部およびアメリカ・ワシントン大学歯学部との間で実施の可否について協議し、COVID-19 感染予防対策のため、本年度の学生の交換事業を中止とした。

同様に、マンチェスター大学に関しても例年は本学部第 5 学年 1 人、生命歯学部第 5 学年 1 人が訪問し、先方からも交換学生を受け入れてきたが、COVID-19 感染予防対策のため、本年度の学生の交換事業を中止とした。

台湾の中山医学大学交換学生については、本学部第 5 学年 2 人、生命歯学部第 5 学年 2 人が同大学歯学部を訪問、中山医学大学からの交換学生も、本学を約 20 日間訪問するように交流を続けてきた。COVID-19 感染予防対策のため、昨年度に続き本年度も交換事業を中止としたが、次年度以降の再開準備に関して両大学間で協議を再開し、次年度後学期に中山医科大学交換学生を受け入れる方向で再開準備に着手した。

中国の四川大学華西口腔医学院についても、本学部第 5 学年 1 人、生命歯学部第 5 学年 1 人が、同大学口腔医学院を約 2 週間訪問していたが、COVID-19 感染予防対策のため、本年度の訪問は中止とした。

（2）合同合宿

ゴールデンウィーク中の連休をクラブ活動週間とし、両生命歯学部学生のスポーツ交流を主目的とした合同合宿を毎年実施してきたが、令和 4（2022）年度も 4 月末から 4 泊 5 日の日程での開催について計画、準備してきた。

本学部からは例年、総員 100 人以上の学生が参加し、両生命歯学部の練習試合、合同練習を通して同一の大学である学生間の交流を深める重要な学生行事となっているが、COVID-19 感染予防対策のため、本年度の開催は中止とした。これに並行して次年度以降の合同合宿の再開について、生命歯学部学生部との間で協議し、具

体的再開計画、開催地の検討等を実施した。これらに関する全般的な支援は学生部が中心となり対応した。

(3) 第 51 回浜浦祭

本学部学園祭である浜浦祭は、学生の課外活動最大の行事であり、令和 4(2022)年度も 6 月に実施を計画していた。例年、各クラブ、同好会は飲食の模擬店出店、日頃のクラブ等活動の発表や展示を行い、公開講座や音楽コンサート、他校との対外試合などスポーツ系のイベントも盛りだくさんの内容で実施しており、新潟病院においても無料歯科検診・歯科医療相談も開催され、これには登院中の第 5 学年全員が参加して新潟病院診療科教員の指導のもとで検診・相談にあたり、学外からの来院参加者も多く好評を博していた。

しかし、COVID-19 感染拡大の予防対策のため、本年度の浜浦祭は全行事を中止とし、次年度の再開に関する準備に着手し、感染予防に配慮した開催形態の検討を学生部、学生会間で実施した。

(4) 歯学体

第 54 回全日本歯科学学生総合体育大会(歯学体)は東北大学が事務主管校となったが COVID-19 感染拡大の予防対策のため中止とされた。

中止に至る間の協議等、学生間の交渉や予算および保険手続きの事務処理等に関しては学生部が支援した。

(5) 令和 4(2022)年度 SCRP 日本代表選抜大会

歯科学生による研究実践発表大会である、令和 4(2022)年度 SCRP 日本代表選抜記念大会が日本歯科医師会主催で Web 方式により開催された。審査方法も COVID-19 感染予防を最優先に配慮されたものとなったことから、当初は参加の方向で希望者を募集したが、COVID-19 感染拡大により参加を辞退した。発表準備に関しては学生部が全般的な支援を実施した。

(6) 認知症カフェの開設と運営

歯科医師を目指す学生が早い段階から高齢者やその家族と触れ合うことを目的に、平成 30(2018)年 12 月、認知症カフェ「N-CafeAngle」を学内(講堂入口の旧喫茶室)に開設した。カフェの企画、運営には訪問歯科グルンドを中心にボランティア学生も加わり、毎月 1 回のペースで実施してきた。

令和 4(2022)年度は、COVID-19 感染拡大の予防対策のため一時中断されていたが、ボランティア学生は Web 方式での再開準備にあたった。なお、歯科大学併設の認知症カフェは国内唯一であり、企画、運営も学生が担うことから、当初より報道機関や行政機関の関心も高く、運営にあたる学生達のモチベーションも必然的に高まった。

(7) 学生会と連携した学生支援活動

学生会が実施した Web 新入生歓迎会、Web での部活動支援等に対して学生部が開催支援した。本学が給付を受けた物価高騰緊急支援事業支援金を活用した弁当や食品配布に関しても、学生会と事務職員、学食職員らが学生部と連携して準備に当たり、オリジナル弁当や食品セット、クオカードの配布等を実施した。

6. 研究関係

(1) 科学研究費採択・申請について

①令和 4 (2022) 年度採択について

(令和 4 (2022) 年度新潟生命歯学部科学研究費採択一覧)

研究種目	審査区分	採択件数	配分額 (千円)
基盤研究 (C)	一般	22	31,200
研究活動スタート支援		0	0
若手研究		10	17,030
計		32	48,230

②令和 4 (2022) 年度科学研究費の申請について

令和 4 (2022) 年度科学研究費申請件数 1 件

研究活動スタート支援 1 件

令和 5 (2023) 年度科学研究費申請件数 61 件

基盤研究 (B) 一般 2 件 基盤研究 (C) 一般 45 件

挑戦的研究 (萌芽) 1 件 若手研究 13 件

(2) 海外との学術交流について

令和 4 (2022) 年度新潟生命歯学部教員海外出張・留学による、海外との学術交流は、7 件の海外出張の予定申請があったが、実績としては 0 件であった。

(3) 研究推進委員会について

本学部の研究向上策構築を目的とした研究推進委員会は、令和 4 (2022) 年度において歯学部長を委員長とする 13 人の委員により、第 128 回から 132 回までメール会議も含め、通算回数で 5 回開催された。

主な審議内容は、次のとおりである。

①科学研究費の採択件数を増加させるため、昨年度に引き続き、小口客員教授と科研費部会員によるブラッシュアップを複数回実施する等、具体的な対策を審議し、実施した。

②令和 5（2023）年度の科学研究費採択に向けた取り組みとして、科学研究費計画調書作成セミナーの開催について審議し、間接経費による新潟大学 RETOP との契約によるオンラインセミナーの受講を企画・実施した。

③令和 4（2022）年度科学研究費間接経費（総額 1,028 万 1,300 円）の用途について、先端研究センター等の研究用設備と機器の整備を審議し、実施した。なお、光熱費の高騰から、今年度は研究に使用する部分の光熱費を面積で按分した額の一部に間接経費を充当した。

（4）産学等連携について

（令和 4（2022）年度新潟生命歯学部委託研究費一覧）

月 日	研究依頼者	講 座	金 額 (単位：円)	研究内容
令和 4 年 4 月 7 日	持田製薬(株)	内科学講座	121,000	グーフィス錠 5mg 特定使用成績調査
5 月 18 日	(株)ライフ	口腔外科	100,000	ムラタムーカスによる口腔乾燥評価に関する研究
6 月 20 日	佐渡総合病院	病理学講座	79,200	病理組織診断
6 月 30 日	興和(株)	内科学講座	33,000	パルモディア錠 0.1mg 長期使用に関する特定使用成績調査
8 月 26 日	佐渡総合病院	病理学講座	55,440	病理組織診断
8 月 31 日	新潟県歯科医師会	新潟病院	910,000	在宅医療プロフェッショナル歯科医師等養成研修
8 月 31 日	新潟県歯科医師会	新潟病院	610,000	在宅歯科医療フォローアップ研修
10 月 13 日	新潟県学校保健会	衛生学講座	50,000	効果的な学校歯科保健活動に関する検討
10 月 31 日	デンタルプロ(株)	歯周病学講座 座 他	300,000	若年層における歯間サイズ調査研究 ー歯間ブラシ挿入可否判断との差異検討ー
11 月 30 日	新潟県歯科医師会	新潟病院	910,000	在宅医療プロフェッショナル歯科医師等養成研修
11 月 30 日	新潟県歯科医師会	新潟病院	610,000	在宅歯科医療フォローアップ研修
令和 5 年 2 月 28 日	佐渡総合病院	病理学講座	56,520	病理組織診断
		合 計	3,835,160	

(5) 先端研究センター

令和3(2021)年10月は、新設された生物科学施設が運用を開始して5年目にあたる。これを機に、令和4(2022)年度中に日本動物実験学会外部検証委員による動物実験の外部検証を受ける予定であった。しかし、COVID-19禍における感染動物実験等の安全性への社会的関心の高まりに鑑み、外部検証の前に生物科学施設に併設されている感染実験室(感染飼育室)および遺伝子組み換え実験室の安全管理体制をこれまで以上に盤石化することとした。

これを受けて新潟生命歯学部病原体等安全管理規程の制定と病原体等安全管理委員会の令和5(2023)年度の立ち上げに向け準備を行った。

7. 新潟病院(歯科部門)

(1) 病院統合関連報告

令和3(2021)年10月の病院統合後は、地域医療連携室を始め各種委員会を統合し医科歯科連携の基盤を構築中である。特に看護師不足に伴う病棟関連問題(急性期患者と要介護患者の混在、入院・手術制限、COVID-19患者対応、夜勤体制)は、全国的な看護師不足もあり解決には至っていないが、今後も連携推進会議を開催しつつ継続して問題解決に努めていく。

病院統合の目的の1つとして掲げた地域包括ケア病床の開設については、言語聴覚士(ST)、理学療法士(PT)の入職とともに、施設基準取得に向けてリハチーム(医師、歯科医師、看護師、ST、PT)を形成し、必要なグループ研修を修了した。現在は摂食嚥下リハ、がん患者リハの本格開始に向け準備中である。

(2) 診療実績について

新潟病院(歯科部門)の令和4(2022)年度外来患者総数は、8万,867人(前年度比-9.7%)で1日あたり339.8人であった。入院患者総数は、3,776人(前年度比+11.2%)で1日あたり10.3人であった。また、平均在院日数は5.3日で、病床稼働率は20.5%(許可病床数92床だが、届出病床数60床での計算)であった。

令和4(2022)年度紹介患者数は、2,873人(歯科部門2,467人:前年度比-2.1%)と減少したが、紹介率は59.8%(前年度比+15.9%)と増加した。

令和4(2022)年度の新潟病院医療収入について、総収入は、8億2,568万3,000円(前年度比-7.7%)で、その内訳は、外来収入6億163万6,000円(前年度比-12.3%)であり、入院収入は、2億2,404万7,000円(前年度比+7.4%)であった。

令和4(2022)年度の増収計画として口腔機能検査等の推進を掲げ、口腔機能の低下を認める患者のみならず、高齢者と予備軍に対し検査を実施した。結果、令和4(2022)年度は、口腔機能管理料258件、舌圧測定検査144件、咀嚼能力検査131件、嚥下内視鏡10件となり、口腔機能低下症の掘り起こしを行った結果、口腔機能管理料が前年度よりも2倍ほど増加した。今後も医療管理委員会による講演会や院内セミナー等の啓蒙を行い全体的な増加を図る。口腔癌の診断・定期検査における

超音波エコー検査(350点)については、平成30(2018)年度157件、令和元(2019)年度180件、令和2(2020)年度129件、令和3(2021)年度152件、令和4(2022)年度は231件と増加した。

新潟病院では、外来収入増加対策として患者総数よりもレセプト1件あたりの平均点数増加を図っている。現在、新潟病院では所属員(教員)数が年々減少し、退職者の患者引き継ぎにより1人あたりの担当患者総数が増加しており予約管理が困難となっているが、その中で1件あたりの平均点数は、平成30(2018)年度781.9点、令和元(2019)年度794.8点、令和2(2020)年度867.7点、令和3(2021)年度918.7点、令和4(2022)年度931.5点と増加してきており、今後も平均単価を上げていく。

経費削減に関しては、経費率の高い技工物について院内技工への移行を推進した。また、教育的観点からもCAD/CAMを導入し、印象採得から補綴物製作等までを一貫して院内技工を中心に出来るようにした。臨床研修歯科医や臨床実習生への教育も兼ね活用している。CAD/CAM冠の実績は、令和3(2021)年度は全て外注で、218件、令和4(2022)年度は導入前4月～10月で全て外注、115件、導入後11月～3月の間で、院内技工110件であった。これらにより、平成30(2018)年度の外注技工は3,248件であったが、令和元(2019)年度3,047件、令和2(2020)年度2,416件、令和3(2021)年度は2,288件、令和4(2022)年度1,714件と年々減少がみられている。

平成29(2017)年度に特殊外来として設置したMRONJ外来において、平成29(2017)年度は109人、28万2,390円の収入であったが、平成30(2018)年度は245人、73万9,500円、令和元(2019)年度は316人、106万1,990円、令和2(2020)年度は319人、119万3,950円、令和3(2021)年度は319人、108万100円、令和4(2022)年度は388人、137万660円と患者数・収入とも増加し、今後も関連する検査を実施し伸ばしていく予定である。

三条市に平成30(2018)年4月に開設した在宅ケア新潟クリニックは、訪問診療やフィールド実習の場として学生教育において重要な役割を担っているが、令和4(2022)年3月には施設基準に定められる処置数、患者数および多職種との連携を整備して在宅療養支援歯科診療所1を取得し、順調に患者数を伸ばしている。

(3) 人材育成

令和3(2021)年度に補綴系の専門医・指導医養成のための検討部会を立ち上げ計画的な育成に努めた結果、令和3(2021)年度中に1人が歯科補綴学会認定医を取得、令和4(2022)年度は1人が歯科補綴学会専門医および指導医、1人が歯科補綴学会認定医、1人が歯科補綴学会修練医を取得した。

特に人員減少と二極化が著明となっている総合診療科については、若手育成のためのワークショップを4月21日に開催し、そのプロダクトに沿って継続的な検討を行い、初診システムを講座・診療科の講師以上の教員が協力して若手を指導する

体制に変更することとした。また、初診時の指導医を総括指導医として、症例によっては各領域の領域担当指導医を加えて指導医グループとして指導することにより、指導医自身も多領域の知識の補充やスキルアップを図れるようにした。今後は定期的な研修会の実施を計画中である。

(4) 働き方改革に伴う人事管理

令和 6 (2024) 年 4 月から本格実施される医師の働き方改革に向けて、新潟病院として A 水準認定を受けるためには令和 5 (2023) 年度中の宿日直許可取得が必須となる。その前準備として、医師および口腔外科所属員に対する勤務実態調査を行った。宿日直許可は道府県単位であり、特に新潟県は宿日直の回数およびインターバル（宿直週 1 回、日直月 1 回）の審査が厳しいため、今後は社会保険労務士のアドバイスを受けながら取得申請を行う予定である。

(5) 在宅訪問歯科診療について

COVID-19 の流行を受け、令和 2 (2020) 年 4 月より歯科におけるオンライン診療が特例として認められることとなった。訪問歯科口腔ケア科では令和 2 (2020) 年度日本歯科医学会プロジェクト研究「ウィズコロナ時代、人口減少時代の歯科診療における ICT 技術導入の有効性に関する研究」の研究分担を受け、ICT 技術を導入した訪問歯科診療、他職種連携を実施し、令和 4 (2022) 年度にはその有効性について検証結果を提出した。

また、訪問歯科口腔ケア科では、訪問診療を担当する歯科医師、歯科衛生士による口腔ケア、オーラルフレイルの予防を中心とした診療を行っており、平成 30(2018) 年度は累計患者数 3,454 人、収入集計 3,379 万 6,313 円、令和元 (2019) 年度は累計患者数 3,288 人、収入集計 3,357 万 4,289 円、COVID-19 の影響を受けた令和 2 (2020) 年度は累計患者数 1,595 人、収入集計 1,669 万 590 円と大幅に減少、令和 3 (2021) 年度は 1,942 人、収入集計 2,065 万 7,470 円と回復し、令和 4 (2022) 年度も歯科医師数減少の中、2 月までの収入集計 1,810 万 900 円と昨年度と同程度となった。

令和 4 (2022) 年度も新潟県歯科医師会の「在宅歯科医療支援事業」である在宅医療プロフェッショナル歯科医師等養成研修と在宅歯科診療フォローアップ研修の委託を受け、地域医療連携室と訪問歯科口腔ケア科が地域の歯科医師、歯科衛生士の人材育成事業を担当し、事業の企画、実施を行った。研修会はすべてオンラインで実施し（9 月 11 日、10 月 23 日、11 月 20 日、2 月 19 日）、現場研修については感染対策を取りながら実施した（各回 5 人、計 5 回）。

また、本事業の一貫として 3 月 5 日に「小児在宅歯科医療について考える」というテーマで合同公開フォーラムを開催し、約 80 人が参加し盛会であった。

(6) 専門医取得プログラムの充実

令和4(2022)年度の新潟病院専門医取得プログラムは9コースであり、20人の専門研修医が研修を行った。

① 小児歯科専門医コース	1人
② 矯正歯科認定医コース	7人
③ 口腔外科認定医コース	0人
④ 歯科麻酔認定医コース	0人
⑤ 総合診療コース	
ア 歯周病認定医コース	4人
イ 歯科補綴専門医コース	1人
ウ 歯科保存専門医コース	0人
⑥ インプラント専修医コース	4人
⑦ 訪問歯科診療コース	3人

(日本老年歯科学会認定医コース、日本有病者歯科医療学会認定医コース)

(7) 歯科医師臨床研修

令和4(2022)年度採用の研修歯科医は、単独型プログラム15人、複合型短期プログラム5人、複合型長期プログラム12人の計32人であった。

今年度も指導歯科医の資質の向上と指導体制の確保を目的として、歯科医療振興財団主催(厚生労働省補助事業)プログラム責任者講習会に、本院複合型副プログラム責任者の高塩智子講師がタスクフォースとして、臨床研修指導歯科医委員会委員赤柴竜講師が受講者として参加した。さらに、日本歯科医学教育学会主催の指導歯科医講習会養成研修会に、臨床研修管理委員会委員高田正典講師と小根山隆浩講師が受講者として参加した。

また、令和4(2022)年度は、2月25～26日に日本歯科大学新潟病院主催の指導歯科医講習会をWeb開催した。参加者は32人(新潟生命歯学部・新潟病院関係者3人、本院の協力型(I)研修施設関係者3人、その他26人)であった。

令和4(2022)年4月から新たな制度のもとで歯科医師臨床研修を開始することとなったが、本院でもこれまでの特徴を生かした研修を継続しつつ、新たな研修目標、方略、評価を設定し、新プログラムによる研修を実施した。

協力型施設に関しては、令和4(2022)年度の施設数は協力型(I)研修施設82施設、協力型(II)研修施設3施設、研修協力施設6施設であり、令和4(2022)年度の制度改正でも十分対応できる環境となっており、群方式での研修環境は充実していると考えている。今後は、改訂した臨床研修プログラムを更にブラッシュアップし、より充実した臨床研修にしていく予定である。

(8) 地域連携室関係

令和 3 (2021) 年 10 月の病院統合に伴い、「地域歯科医療支援室 (歯科)」と「地域医療連携室 (医科)」を統合して「地域医療連携室」とし、医療職員 (社会福祉士) 1 人を加え 3 人体制で運営することとし、業務内容も統合整理した。

①予約初診、紹介患者の管理：患者来院報告、返書管理、FAX 予約管理は現状維持とした。令和 4 (2022) 年 10 月からの診療時間の一部変更に伴い、関連医療機関へ診療時間の変更を送付した。また、紹介状の有無による受付時間等の明確化を行い、広報誌 IVY NEWS LETTER で関連医療機関への周知を行った。

②退院支援・退院調整・相談業務：例年同様に、退院支援・退院調整の必要な患者を早期に特定し、スムーズな在宅、他院、他施設等への移行を支援した。延べ 96 件/月の入院患者、述べ 49 件/月の外来患者への電話や面接による相談や支援を行った。また、外部からの電話や FAX による相談、紹介患者等に対する紹介先からの苦情対応も行った。外来退院時カンファレンスについては COVID-19 感染拡大の影響により開催は困難であった。

③地域歯科保険医療広報活動：広報誌 IVY NEWS LETTER Vol.46 (5 月 1 日)、Vol.47 (12 月 1 日) の発行、新潟病院メールマガジンの配信 (Vol.193 よりカラー化、Vol.194 より QR コードを表示)、紹介患者への各種連絡や年賀状の送付、院内マスク対応 (2 件)、各種啓発イベント (第 42 回歯と口の健康フェア；6 月 2 日～5 日、福祉・介護・健康フェア 2022 in 新潟；11 月 26 日) への企画参加を行った。

④地域歯科医療、医療・福祉従事者への教育研修支援に関する調整：令和 4 (2022) 年度より休止していた「在宅歯科医療支援事業 在宅歯科医療推進のための人材育成事業 在宅プロフェッショナル歯科医師等養成研修 在宅歯科医療フォローアップ研修」を訪問歯科口腔ケア科と協力してオンライン Live 配信にて開催した (9 月 11 日、10 月 23 日、11 月 20 日、2 月 19 日、3 月 5 日の 5 回)。3 月 5 日は在宅歯科医療支援事業「合同公開フォーラム～小児在宅歯科医療について考える」として開催された。また、地域歯科医療研修事業の一環として「第 17 回新潟口腔ケア研究会」がテーマ「周術期口腔機能管理の Up To Date」でオンデマンド配信 (11 月 20 日～12 月 10 日) された。

⑤行政・地域歯科医師会との地域保健、医療連携に関わる各種調整業務：新潟市が実施している在宅医療連携拠点整備事業において、在宅歯科医療機関として SWAN ネット (Net4U) を利用し、退院支援や退院調整等の地域医療機関との情報交換を継続し、地域包括ケアシステムに参画した。訪問口腔ケア支援モデル事業では、信楽園病院、燕労災病院、地域歯科医師会と協働し、訪問口腔ケア、摂食嚥下・

食支援の連携体制を継続した。また、平成 29 (2017) 年度より開始した済生会新潟病院との医科歯科連携も継続した。平成 25 (2013) 年度から行っている新潟県歯科医師会とがん患者に対する歯科医療連携推進事業も継続している。

⑥その他：校友会支援事業である会員診療所業務継続互助事業として 2 件（山形県 1 件、新潟県 1 件）の派遣歯科医調整を行った。さらに、大規模災害時の歯科保健医療支援または身元確認支援の調整業務、新潟県歯科医師会災害医療コーディネーターとしての協力については、新潟県警察歯科医会身元確認研修会に参加した。

(9) 研修学生や留学生の受け入れについて

姉妹校研修学生および留学生の受け入れは、世界的な COVID-19 拡大の影響から令和 4 (2022) 年度も中止とした。

8. 新潟病院（医科部門）

(1) 診療実績について

令和 4 (2022) 年度の総外来患者数は 1 万 9,937 人（前年度比-13.1%）で、1 日あたり 83.8 人であった。また、延べ総入院患者は 1,883 人（前年度比-24.8%）で、1 日あたり 5.2 人であった。なお、平均在院日数は 7.9 日で、病床稼働率は 9.7%（許可病床数 92 床だが、届出病床数 60 床での計算）であった。

医療収入に関しては、外来収入は、2 億 4,195 万 9,000 円、（前年度比-3.3%）であり、入院収入は、6,726 万 5,000 円（前年度比-20.1%）であった。総収入は、3 億 922 万 4,000 円（前年度比-7.5%）であった。

(2) 内視鏡学会指導施設の維持について

本院は、平成 20 (2008) 年度に日本消化器内視鏡学会から正式に指導施設として認定された。3 年毎の更新のために毎年認定基準を維持する必要があり、令和 4 (2022) 年度は 629 例の消化器内視鏡検査を施行した。

(3) 学生教育について

令和 4 (2022) 年 4 月 13 日（水）から 11 月 30 日（水）まで、内科で第 5 学年臨床実習生 57 人の病院実習を担当した。

(4) 職員教育について

医科部門における職員の意識、能力の向上のため新職員・研修医に令和 4 (2022) 年 5 月 25 日（水）に院内輸血研修会を実施した。また、全職員に対し DVD 視聴方式で令和 4 (2022) 年 12 月 9 日（金）から 12 月 27 日（火）に院内感染防止対策講習会、令和 5 (2023) 年 1 月 5 日（木）から 1 月 25 日（水）に第 1 回医療安全

講習会を資料閲覧と確認テストで行い、第2回医療安全講習会は動画閲覧と小テストを3月23日（木）から3月31日（金）に行った。

(5) 本学教職員・学生の健康管理について

本学教職員ならびに学生を対象とした定期健康診断を、COVID-19対策のため分散し、令和4（2022）年6月13日（月）から17日（金）に実施した。有害業務従事者に対する年度内2回目の健康診断は、令和4（2022）年12月5日（月）から7日（水）に行った。

また、11月より教職員・学生の希望者にインフルエンザワクチン接種を行った。B型肝炎ワクチン接種は、令和3（2021）年に続き学部第1学年に対しては実施しなかったが、令和4（2022）年は第2学年に対し接種を実施した。短大第1学年は、予定どおり実施することができた。

(6) 特定健診、企業健診について

7事業所に対して企業健診を行った。

また、新潟県校友会へ職員健診及び人間ドックの案内を配信し、2事業所に対して行った。

(7) 医師会活動について

令和4（2022）年度の医師会活動として、新潟市の各種がん検診事業に参画した。また、新潟市急患診療事業として行われている「新潟市二次輪番病院」の輪番制協力病院として、内科5回を担当した。さらに、新潟市のインフルエンザサーベイランスに協力した。新潟市医師会が行っている病診連携事業への連携病院として、「はまうら会—日本歯科大学医科病院勉強会—」は多数の近隣医療従事者が来場するため、COVID-19感染防止の観点から令和4（2022）年度も開催を中止した。

(8) その他

平成24（2012）年度より新潟大学医歯学総合病院との感染防止対策合同カンファレンスに医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師が1人ずつ参加しており、令和4（2022）年度は5月19日（木）、8月18日（木）、11月17日（木）、令和5（2023）年2月16日（木）、Zoom会議の計4回参加した。なお、本カンファレンスに参加することにより入院患者1人につき感染対策向上加算3（75点）の算定が可能である。

耳鼻咽喉科の咽喉頭ファイバースコープについては順調に稼働しており、令和3（2021）年度は752件、令和4（2022）年度は943件であった。

9. 施設・設備

(1) 令和4(2022)年度に実施した主な施設・設備工事等について(単位:円)

No.	件名	場所	決算額	目的
1	1号館アスベスト除去及びそれに伴う改修工事	1号館	41,624,000	1号館内天井吹付アスベストの除去を含め、アスベスト除去、天井外装の改修を実施。高所照明のLED化により消費電力量の省エネルギー化を実施した。
2	各棟設備等改修工事	1号館2階MM実習室 新潟病院1階診療室 新潟病院2,3,4階診療室	2,750,000 4,130,500 17,600,000	経年劣化により機能低下している各棟の個別冷暖房装置の更新を実施した。
3	学内ネットワーク再構築およびネットワーク監視サーバーの設置	各棟SW設置機械室等	10,757,560	都度増設していくことで大きく、複雑になった学内ネットワークを見直し、トラブルとセキュリティに強い構造と設備へ再構築するため光ケーブルを除く設備について更新を行った。
4	CAD/CAMシステムの導入	新潟病院3階(CAD/CAM技工室)	18,898,990	光学印象による歯冠形成の教育上に必要なため。また、診療上も必要なためCAD/CAMシステムを導入した。
5	歯科用ユニット更新	新潟病院(歯科麻酔・全身管理科)	6,508,260	共用診療室2(外来手術室)17年経過歯科用ユニットをオサダ STリクルスに更新した。
6	歯科用ユニット更新	新潟病院(口腔ケア機能管理センター)	3,599,629	口腔ケア機能管理センター内の歯科用ユニット(経年劣化、破損による機能不全)をヨシダ エクシード CL前折れ2型へ更新した。
7	歯科用ユニット更新	新潟病院(障害児・者歯科センター)	2,970,000	障害児・者歯科センター20年経過(経年劣化)歯科用ユニットをモリタ ハーモニーセットへ更新
合計			108,838,939	

10. 人事関係

(1) 役職教員の選任について

令和4(2022)年4月1日付選任の役職教員について、令和4(2022)年3月開催の理事会において次のとおり決定し、選任された。

役職名	所属	職階	氏名
学生部長(重任)	衛生学講座	教授	小松崎 明
図書館長	解剖学第1講座	教授	影山 幾男
新潟病院長(重任)	口腔外科	教授	山口 晃

(2) 教員評価について

令和4(2022)年度に実施すべき教員評価に関する活動は、令和3(2021)年度の学生による授業評価調査を実施したものの、令和4(2022)年度中に教員による教育・研究・診療等に関する調査を実施することができなかつたため、令和5(2023)年度の対面授業の完全再開に向け、実施準備を進めている。

(3) 教職員福利厚生について

①令和4(2022)年度教職員健康診断

令和4(2022)年度健康診断は、密を避け、日程を細分化して実施した。

日付	場所	内容	受診者
5月9日, 11日	講堂前検診車	胃X線間接撮影	59人
6月13日～16日	講堂前検診車 内科外来他	教職員健康診断 (第1回有害業務従事者健康診断)	321人 (81人)
12月5日～7日	医科外来	第2回有害業務従事者健康診断	82人

②令和4(2022)年度教職員B型肝炎ワクチン予防接種

平成30(2018)年度教職員B型肝炎ワクチン予防接種より、新規接種対象者については個別に対応、抗体価が経年により低下した者に対しては実施しないこととしている。

③令和4(2022)年度教職員インフルエンザワクチン予防接種

日付	場所	内容	接種者
10月31日 11月8日 11月28日	講堂	インフルエンザワクチン接種	308人

1.1. 庶務関係

(1) 公開講座について

COVID-19の影響により、例年浜浦祭に併せて開催していた公開講座は浜浦祭とともに中止となった。

(2) 科学研究費について

令和4(2022)年度に実施された、科学研究費に関する活動は次のとおりである。

(令和4(2022)年度科学研究費に関する活動)

日付	場所	内容	人数
4月1日		令和4年度科学研究費交付内定	継続 21人 新規 11
4月19日 (東京送付)		交付申請・交付(支払)請求関係書類提出	研究代表者 10
6月10日	メール	科学研究費の取扱いについての説明 (令和4年度交付申請者対象)	研究代表者 10
5月9日 (東京送付)		研究活動スタート支援計画調書提出	申請件数 1
5月27日 (東京送付)		令和3年度分実績(実施状況)報告関係書類提出	研究代表者 30

6月17日 (東京送付)		研究成果報告書提出	研究代表者 6
6月21日		令和4年度交付決定(助成金)	研究代表者 10
8月8日	メール	科学研究費応募申請説明 ・令和5年度公募内容の変更点について	研究者 112 事務担当者 5
8月10日	メール	サクっとセミナーHP掲載案内	
8月26日	メール	サクっとセミナー9月前半開催案内	
9月14日	メール	サクっとセミナー9月後半開催案内	
9月27日	メール	サクっとセミナー10月前半開催案内	
10月12日	メール	サクっとセミナー10月後半開催案内	
10月4日 (東京送付)		令和5年度計画調書提出(基盤研究(B)、基盤研究(C)、挑戦的研究(萌芽)、若手研究)	申請件数 61
2月24日 (東京送付)		助成金(継続課題)支払請求書提出	研究代表者 21

12. 図書館

(1) 情報検索説明会の開催

令和4(2022)年5月に専門講師による医学中央雑誌説明会をオンラインで開催した。

(2) 図書委員会の開催

令和4(2022)年度は、WEB会議1回を含む計4回図書委員会を開催し、見計らい図書の選書、電子ジャーナルの購入タイトル見直し等を審議した。

13. 医の博物館

資料(史料)の確認・整理を行い、展示の充実、寄贈品の管理を行った。また、メディアからの問合せ等には積極的に応じ、博物館の広報を行った。

(1) 令和4(2022)年度来館者数

令和4(2022)年度の来館者は、COVID-19による入場制限を緩和させたため約650人で昨年度より200人ほど増加した。

(2) 令和4(2022)年度資料提供・史料貸与、問い合わせ等に対応。その主なものを記載。

- ① 1月下旬 大阪歴史博物館 画像提供「注射器」
- ② 1月下旬 清水書院 画像提供「解体新書・蔵志」

(3) 所蔵品の整理・データ集積

8号館3階にある博物館史料保管室および博物館館務室別室の整理ならびに史料確認と記録を行った。また生命歯学部にある貴重な資料の確認も行った。

(4) 本学卒業生の資料集積

本学出身者の歯科医業だけではない、他に秀でた才能に関する史料等を調査、資料の保管を行った。

(5) 校友文庫の管理

本学創立以来の校友の先生方の本を集め、書籍目録の作成を継続して行った。

(6) 展示中の史料の保管

展示中の史料保管は展示ケース内の温度・湿度に注意を払い、生物被害がおよばない環境整備に配慮した。また GAKUSHOKU 前の「エントランス展示」には、本学の関連資料および博物館関連資料（復刻版）などを追加展示した。

14. ITセンター

(1) サーバー室（ネットワーク）関連

①ファイアウォールリプレース

ファイアウォール装置について最新機種へのリプレースを行った。

②運用サーバー

メールサーバー	1台
DNSサーバー（学生サーバー兼用）	1台
DHCPサーバー	1台
WWWサーバー	1台
短大ホームページ用ゲートサーバー	1台
CBT試験用サーバー	1台
IT教室1用ゲートサーバー	1台
出席管理用サーバー	1台
教員用DESS歯学サーバー	1台
授業評価・教員評価アンケートシステムサーバー	2台

(2) IT教室1関連

①教室使用講義

学部第1学年 情報科学の実習

短大第1学年 コンピュータ演習

短大専攻科 コンピュータデータ解析演習

大学院第1学年 共通授業／研究の基礎

②教室利用行事

学部第4学年 CBT 模擬試験

学部第4学年 CBT 試験

学部第4学年 CBT 追試験

図書館医中誌講習会

(3) IT 教室 2 関連

①開室日数 365 日

(学生への開放は COVID-19 感染対策のため年度を通して休止)

(4) マルチメディアショップ関連

①年間利用者人数 95 人

②機器貸出件数 35 件

15. 国際交流

(1) 令和4(2022)年度姉妹校学生交流事業

①派遣

COVID-19 の影響により、派遣事業は中止となった。

②受入

COVID-19 の影響により、受入事業は中止となった。

(2) 令和4(2022)年度姉妹校交流状況

①派遣

無し

②受入

無し

(3) 令和4(2022)年度海外留学・海外出張状況

無し

16. 事務職員研修

令和4(2022)年度の事務職員研修については、日本私立歯科大学協会主催の Web による研修が実施され、事務職員2人が参加した。

17. 補助金の獲得

補助金獲得のために、行政機関の補助金に関する事業募集については令和4(2022)年度も積極的に申請を行った。

新潟生命歯学部については、理事会会計予算で作業予定であった「1号館アスベス

ト除去工事 2,310 万円」を文部科学省の私立学校施設整備費補助金に応募申請し、採択された結果、1,155 万円の補助金を獲得した。

新潟病院においては、次の補助金の交付を受けた。

・発熱外来診療体制確保支援補助金	52 万 5,000 円
・新型コロナウイルスワクチン個別接種促進事業	157 万 5,190 円
・訪問歯科診療機器等整備事業	105 万 6,000 円
・病院群輪番制運営事業	44 万円

18. 歯学教育評価の受審

令和 4 (2022) 年度は、歯学教育評価を受審した。評価の結果、日本歯科大学新潟生命歯学部生命歯学科 (学士課程) は、大学基準協会の歯学教育に関する基準に適合していると認定され、認定の期間は令和 5 (2023) 年 4 月 1 日から令和 12 (2030) 年 3 月 31 日までとなった。

V. 新潟生命歯学研究科

1. 入学者および在籍学生数

(1) 新潟生命歯学研究科入学者について

令和 4 (2022) 年度は 9 人が入学した。また、令和 5 (2023 年度) の入学試験 (I 期、II 期と III 期) を実施して合格者 9 人 (志願者 9 人) を選抜し、9 人が入学した。

(2) 在籍学生について (単位: 人)

(令和 4 年 4 月 1 日現在)

研究科	専攻	入学定員	収容定員	在籍学生数			
				一般	社会人	留学生	計
新潟生命歯学研究科	生命歯学専攻	18	72	38	—	—	38

2. 学位授与者

令和 4 (2022) 年度における新潟生命歯学研究科学位授与者は、甲論文の 10 人であった。8 人はインパクトファクター付国際誌 (IF 誌) に受理されており、2 人は IF 誌に投稿中である。

3. 研究発表会

令和 4 (2022) 年度新潟生命歯学研究科研究発表会を令和 4 (2022) 年 8 月 25 日 (木) に開催した。第 4 学年大学院生 7 人と第 3 学年大学院生 6 人が発表し、活発な質疑応答があった。また、新潟生命歯学研究科研究中間発表会を令和 4 (2022) 年 12 月 13 日 (火) に開催した。第 3 学年大学院生 7 人と第 2 学年大学院生 7 人が発表し、活発な質疑応答があった。なお、両発表会は十分な COVID-19 感染防止対策 (マスク着用、講堂使用、ソーシャルディスタンス、入場者制限、十分な換気等) をとったうえで実施した。

4. 奨学生募集

令和 4 (2022) 年度の新潟生命歯学研究科奨学生を募集し、5 月 9 日 (月) に実施された試験等により応募者 8 人の中から 5 人の奨学生を選抜し、就学のための経済的支援を行った。

5. 教育内容の充実

第 1 学年に対し、シラバスに基づいて共通授業を行った。共通授業では、各専門領域における先端医療の症例解説を通年で行い、研究の遂行に必要な基本的知識・手技に関する講義・演習を後学期に行った。この後学期授業では、一連の組換え遺伝子実験を実施した。また、歯科統計学の授業は第 1 学年の 8 人に対し、研究データの分析に重要な統計学の基礎と応用を研鑽させ、適正な統計処理に基づく質の高い論文作成が図れるように努めた。

6. 入学者の確保

令和4(2022)年度と令和5(2023)年度の入学者は、ともに9人であった。収容定員(72人)に対する令和5(2023)年度の在籍学生数は38人で、充足率(53%)は未だに低い。そのため、例年4月に実施している研修医に対する大学院説明会に加え、第5・6学年に大学院に関する説明を行った。

VI. 東京短期大学

1. 東京短期大学の概要

(令和 4 年 5 月 1 日現在)

学校名	学部学科名	開設年度	修業年限 (年)	入学定員 (人)	収容定員 (人)	在学者数 (人)
日本歯科大学 東京短期大学	歯科技工学科	平成 17 年	2	35	70	28
	歯科衛生学科	平成 17 年	3	70	210	202
	専攻科 総合技工学専攻	平成 18 年	2	8	16	9
	専攻科 歯科技工学専攻	平成 24 年	2	5	10	5
	専攻科 歯科衛生学専攻	平成 21 年	1	10	10	10
	専攻科 口腔リハビリテーション学専攻	平成 25 年	1	5	5	0

2. 入試概要

令和 5 (2023) 年度 4 月の入学者数は歯科技工学科 14 人、歯科衛生学科 64 人となった。

令和 5 (2023) 年度入学試験では、総合型選抜のエントリー受け取りをやめ、総合型選抜 I 期・II 期とし受験回数を増やした。学校推薦型選抜も同様に I 期・II 期とし受験回数を増やした。また歯科衛生学科の学校推薦型選抜では、出願条件である評点平均値を 3.3 から 3.0 に引き下げ、一般選抜は、A・B と 2 回行っていたが、1 回に変更した。

専攻科は学内選抜を行わず、一般選抜のみに変更した。また専攻科総合技工学専攻、専攻科口腔リハビリテーション学専攻は令和 5 (2023) 年度入学者より募集を停止した。

試験区分別における入学者数等は次のとおりである。

【歯科技工学科 (定員 35 人)】

試験区分	募集人員 (人)	志願者数 (人)	合格者数 (人)	入学者数 (人)
総合型選抜 I 期	約 15	9	9	9
総合型選抜 II 期		4	4	4
学校推薦型選抜 I 期	約 10	1	0	0

学校推薦型選抜Ⅱ期		1	0	0
一般選抜	若干	2	2	1
社会人選抜	若干	0	0	0
合計		17	15	14

【歯科衛生学科（定員 70 人）】

試験区分	募集人員 (人)	志願者数 (人)	合格者数 (人)	入学者数 (人)
総合型選抜Ⅰ期	約 20	42	37 ^{※1}	37
総合型選抜Ⅱ期		12	12 ^{※1}	9
学校推薦型選抜Ⅰ期	約 30	6	6	6
学校推薦型選抜Ⅱ期		7	7	6
一般選抜	約 5	10	9	5
社会人選抜	若干	2	1	1
合計		79	70	64

※1 内 2 人は総合型選抜Ⅰ・Ⅱ期とも合格

【専攻科歯科技工学専攻（定員 5 人）】

試験区分	募集人員 (人)	志願者数 (人)	合格者数 (人)	入学者数 (人)
一般選抜	約 5	4	3	3
合計		4	3	3

【専攻科歯科衛生学専攻（定員 10 人）】

試験区分	募集人員 (人)	志願者数 (人)	合格者数 (人)	入学者数 (人)
一般選抜	約 10	14	10	10
合計		14	10	10

3. 学生募集

- (1) COVID-19 の拡大の影響に伴い、オープンキャンパスはオンライン型で開催していたが、令和 4（2022）年度は、人数を限定して来校型 7 回を行った。
- (2) 個別相談会は、平日に完全予約制で、オンラインで入試相談等を行った。
- (3) 来校型平日見学会は、COVID-19 の拡大の影響に伴い、完全予約制の 1 開催あたり 2 組（同伴者 1 人）限定で少人数来校型の学校見学を開催した。

(4) 高等学校への訪問は、COVID-19の拡大の影響に伴い、訪問受け入れが可能な数校を訪問した。

4. 新入生歓迎会

本会は、東京短期大学と生命歯学部学生間との交流およびクラブ活動への勧誘を主目的として開催されている。令和4(2022)年度は、生命歯学部富士見ホールにて、歯科技工学科、歯科衛生学科、生命歯学部新入生が参加し、クラブ活動紹介を行った。

5. 校外授業・校外研修

(1) 歯科技工学科第1学年

芸術性および観察力豊かな歯科技工士を目指すために、授業科目「美術概論」の一環として、東京国立近代美術館と北の丸公園において校外授業を行った。

(2) 歯科衛生学科第1学年・専攻科歯科衛生学専攻第1学年

例年、袖ヶ浦セミナーハウスにて歯科衛生学科第1学年に向けたキャリアガイダンスを専攻科歯科衛生学専攻生が行っている。しかし、令和4(2022)年度は、COVID-19の拡大の影響に伴い、中止とした。

(3) 歯科衛生学科第2学年

例年、歯科用製品の製造施設である株式会社ジーシー富士小山工場での校外研修を行っている。しかし、令和4(2022)年度は、COVID-19の拡大の影響に伴い、中止とした。

(4) 歯科衛生学科第3学年

例年、医療法人鉄蕉会亀田メディカルセンターでの校外研修を行っている。しかし、令和4(2022)年度は、COVID-19の拡大の影響に伴い、中止とした。

6. 臨床実習開始

歯科技工学科第2学年においては、5月9日(月)～9月9日(金)に日本歯科大学附属病院における臨床見学実習等を行った。

歯科衛生学科第2学年においては、臨床実習を開始するにあたり、令和4年(2022年)10月6日(木)に学長をはじめとする短大教員出席のもと登院式を挙行了した。

7. 国家試験

(1) 歯科技工士国家試験は、令和5(2023)年2月19日(日)に、日本歯科大学生命歯学部を試験会場として施行された。結果は、令和5(2023)年3月24日(金)に発表され、歯科技工学科の受験者8人全員が合格した。

(2) 歯科衛生士国家試験(第32回)は、令和5(2023)年3月5日(日)に、大妻女子大学千代田キャンパスを試験会場として施行された。結果は、令和5年(2023年)3月24日(金)に発表され、歯科衛生学科の受験者70人全員が合格した。

8. 専攻科

(1) 歯科技工学専攻は、平成24(2012)年度に大学評価・学位授与機構の認定専攻科となり、修了生の輩出が10年目となる。令和4(2022)年度は、歯科技工学専攻を修了した2人全員が学士の学位授与が認定された。

(2) 総合技工学専攻は、豊富な知識と最新の高度な臨床技工の技術を修得した6人が修了した。

(3) 歯科衛生学専攻は、平成26(2014)年度に大学評価・学位授与機構の特例認定の専攻科となり、令和4(2022)年度は、歯科衛生学専攻を修了した7人が特例認定の審査方式により、また3人が通例認定の審査方式により、学士の学位授与が認定された。

9. 施設・設備

301講堂、多目的室の老朽化している机の入替を行った。

10. 地域連携事業

(1) 日本歯科大学・日本歯科大学東京短期大学主催の令和4(2022)年度公開講座を令和4(2022)年11月24日(木)「だ液は何から作られ、何をするの?～だ液は健康のバロメーター～」をメインテーマで生命歯学部九段ホールにおいて開催した。日本歯科大学東京短期大学からは9人が聴講した。

(2) 歯科衛生学科と専攻科歯科衛生学専攻では、学生が主体となり、都内の中学校において、歯と口腔に関する健康教育を実施した。専攻科歯科衛生学専攻科は、令和4(2022)年度に品川区介護予防事業に参加し、口腔衛生管理に関する講話を実施した。

11. 雑誌

「日本口腔保健学雑誌」は令和元(2019)年度刊行の9巻1号からオープン化を図り、令和4(2022)年度は12巻1号を刊行した。本誌は、口腔保健学、歯科技工学、歯科医療技術などに関連する研究ならびに教育の成果について公表することを目的としている。本誌は、国立研究開発法人科学技術振興機構J-STAGEへの掲載、DOIナンバーも付与されたことから、外部からのアクセスも容易になり、社会的に果たす役割は従前と比較して大きくなったと考える。

本誌 12 卷 1 号には、原著論文 5 編、調査研究 3 編、教育報告 1 編が掲載された。投稿者は、東京短期大学の専攻科卒業生、新潟短期大学の専攻科卒業生のみならず、東京短期大学の専任教員も含まれている。

VII. 新潟短期大学

1. 新潟短期大学の概要

(令和4年5月1日)

学 校 名	学 科・専攻科名	開設年度	修業 年限 (年)	入学 定員 (人)	収容 定員 (人)	在学 者数 (人)
日本歯科大学 新潟短期大学	歯科衛生学科	昭和 62 年	3	50	150	162
	歯科衛生学専攻 (認定専攻科)	平成 23 年	1	5	5	6
	在宅歯科医療学専攻	平成 26 年	1	3	3	0
	がん関連口腔ケア学 専攻		1	3	3	0

2. 学生募集

(1) 入学者選抜改革

令和 5 (2023) 年度入学者選抜においては、高大接続改革により新たに導入されたルールのもと、総合型選抜 I・II、学校推薦型選抜(指定校制・公募制)、社会人選抜、一般選抜(大学入学共通テスト利用)、一般選抜 I・IIにより、学力の 3 要素(知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)を多面的・総合的に判断し、本学のアドミッションポリシーに適合した学生の確保に努めた。また、総合型選抜及び一般選抜については新たに第 II 期を設置のうえ選抜実施回数を増やし、受験機会の更なる確保を図った。結果として令和 5 (2023) 年度入学者数は 58 人となり、令和 4 (2022) 年度入学者数の 55 人から 3 人増加した。総合型選抜 I・II では、ワークショップ形式の集団面接や個人面接等からアドミッションポリシーとの適合性を判定し、15 人を合格とした。学校推薦型選抜の受験者数は 33 人であり、指定校制の受験者数は 31 人、公募制の受験者数は 2 人であった。指定校制推薦基準は前年度と同様、全教科の評定平均 3.2 以上の者としたが、今後も継続して推移を見ていく予定である。社会人選抜の受験者数は 1 人であり、合格者数は 0 人であった。今回が最後の実施となる一般選抜(大学入学共通テスト利用)は、合格者数 9 人、入学者数 7 人であった。また、一般選抜 I・II は、合格者数 4 人、入学者数 3 人であり、入学者数は前年度と同数であった。

地域別入学者数を比較すると、新潟県外入学者数は前年度よりも増加しており、広報戦略による一定の効果を実感している。引き続き広報活動を計画的に展開し、入学者の確保に努めたい。

なお、令和 5 (2023) 年度における選抜区分別入学者数等は次のとおりである。

【歯科衛生学科】

区 分		志願者数(人)	受験者数(人)	合格者数(人)	入学者数(人)
総合型選抜Ⅰ		14	14	14	14
総合型選抜Ⅱ		1	1	1	1
学校推薦 型選抜	指定校制	31	31	31	31
	公募制	2	2	2	2
	計	33	33	33	33
社会人選抜		1	1	0	0
一般選抜 (大学入学共通テスト)		10	9	9	7
一般選抜Ⅰ		4	4	3	2
一般選抜Ⅱ		2	2	1	1
合 計		65	64	61	58

【専攻科】

専 攻	志願者数(人)	受験者数(人)	合格者数(人)	入学者数(人)
歯科衛生学Ⅰ	6	6	6	6
歯科衛生学Ⅱ	1	1	1	1
がん関連口腔ケア学	0	0	0	0
在宅歯科医療学	0	0	0	0
合 計	7	7	7	7

(2) 高校訪問・入試相談会

令和4(2022)年度も引き続き COVID-19 感染拡大状況を考慮し、感染防止策を講じたうえで県内の高校訪問を実施した。また、県内外で開催された進学相談会にも新潟生命歯学部とともに参加し、新潟生命歯学部、新潟病院と連携した教育カリキュラムを実施していることを強調した。一部の進学相談会では新潟生命歯学部と合同の体験ブースも企画し、治療に用いる器材を使用した体験型実習を行い、参加者から良好な反応が得られた。引き続き体験ブースでの広報を継続したい。

(3) オープンキャンパス

令和4(2022)年度も引き続き COVID-19 感染防止対策を徹底したうえで、体験実習や在学生との懇談会を含む対面型のオープンキャンパスを継続し、オンライン型とのハイブリット方式のオープンキャンパスを実施した。また、新たな試みとして平日の放課後に「放課後発見リトルツアー」を対面参加型で実施した。それぞれ9回実施し、延べ151人の高校生が参加した。オープンキャンパスは高校生のキャ

リアデザインの構築時期を考慮し初回の開催を5月に早め、最終開催月を11月に遅らせた。さらに高校1、2年生を対象として3月にも実施した。7月には昨年度に引き続き、新潟生命歯学部と合同で歯科医療に関する職種の啓蒙を目的とした「ハノシゴトフェスティバル2022」を実施した。新潟県内の小学生から高校生まで、父母同伴を含む40組73人と多数の方に参加いただき「ハノシゴト」に対する認識が高まったものと思われる。

(4) 広報活動

令和4(2022)年度は県内の高校訪問、隣接県の進学相談会の参加、ハイブリッド方式のオープンキャンパスと「ハノシゴトフェスティバル2022」の実施、SNSを利用した広報活動、新聞広告、受験雑誌の掲載等による広報活動の強化を行った。今後も引き続き学生募集対策を模索していく。令和5(2023)年度入学者選抜結果では県外からの入学者が、長野県3人、富山県3人、福島県2人、山形県1人、秋田県1人、石川県1人、福井県1人の合計12人で、令和4(2022)年度の県外入学者3人から大幅に増加した。令和5(2023)年度は、オープンキャンパスへの参加状況と在校生の出身高校をもとに群馬県、福島県、山形県、長野県、富山県といった隣接県の高校訪問と広報活動を継続したい。令和5(2023)年度入学者選抜も、本学のアドミッションポリシーに適う、意欲的で優秀な学生の確保に努めていく。

(5) 社会人経験学生の確保

本学は、厚生労働省の教育訓練給付制度における専門実践教育訓練講座として認定されており、一定の条件を満たせば授業料等の補助を受けることができるため周知に努めたが、志願者数は0人であった。引き続き、本制度の周知と実績をアピールし、給付制度の対象者への受講を推奨し、社会的知識、経験が豊富で資格取得に意欲のある受験生の確保を今後も継続して目指していく方針である。

3. 教育

(1) カリキュラムおよび授業

令和4(2022)年度はCOVID-19対策として、前期中は、密の回避のための少人数制実習とオンライン授業を実施し、後学期より全授業全面对面にて実施した。年度末の学生アンケートからは、7割以上の学生が授業に満足していると回答しているが、「教科書と授業の内容が合っていない」「教員がどこにいるか分からない」などのアンケート結果から、授業展開の改善、オフィスアワーの活用について再度教員への周知が必要であると考えられる。

(2) 学生の学力判定

令和4(2022)年度も入学前教育プログラム(リメディアル)と入学後の学力判定試験を継続した。その結果について、進研アドによる説明会を年2回開催し、全

教職員で共有を行った。クラス主任・副主任のみならず、関わる教職員が共通認識を持つことが重要であると再認識した。

また、知識の定着度を判定する第1学年・第2学年の総合試験において、60点以上の獲得を目指すため、後学期よりプレポストテストを導入したが、総合試験の平均点は例年とほぼ同程度であった。今後はプレポストテストの導入時期、その他ワークショップなども検討する。また、実際の学力判定のフィードバックを学生自身へ確実にを行うためにも、総合試験・模擬試験・プレポストテストの結果について自己分析シートなどを活用し、一人一人の学力を可視化できる仕組みを構築しなくてはならない。

(3) 国家試験対策

第32回歯科衛生士国家試験を52人が受験し、51人合格、1人不合格という結果となった。自己採点結果による平均点は71.6点と、前回は4点下回る結果となった。本学創立以来維持してきた100%合格率を継続できなかったことは重大な問題であり、今後の国家試験対策を大きく見直す必要がある。

令和4(2022)年度はブラッシュアップ体制強化の元、信頼のおける試験作成に取り組んだ。しかし、事後評価において、図表・写真問題の不足、正解率100%の問題、10%未満の問題、識別指数マイナス問題も多数ある事が確認された。学生の学力判定として、適切な問題であるかを再度検証し、出題依頼の改善に努めたい。

4. 学生支援

(1) 学生相談

各学年(専攻科含む)の指導は、クラス主任・副主任を中心に、4~5月に個人面談を行い、個々の状況を把握し、全教員が状況に応じた個別指導を行った。さらに学生相談員2人を配置し、生活面や精神面でのサポートを行い、学年別の悩みについては歯科衛生士教員を配置し、習熟状況に応じた学習支援や相談、生活指導等を実施した。

本学では学生相談室を設置し、囑託のカウンセラー(臨床心理士)を配置し毎週1回から2回の相談日を設けて悩みの相談に対応している。カウンセラーからの要望もあり、予防的な早期面談を実施可能とするべく、クラス主任等から学生相談室の利用を積極的に指導した。なお、令和4(2022)年度は、保護者からの相談も1件あった。

防犯や防災に関する連絡体制もメール配信を中心に随時実施し、警察からの不審者情報や気象悪化による交通障害情報等の配信も必要に応じて実施した。

(2) 学長懇談会

第1学年の学生を対象に、11月27、28、31日の3日間で学長懇談会を実施した。対面形式での懇談会には学長のほか、学生課長、クラス主任、副主任も参加し、自

己紹介で親睦を深めるとともに、学生より在学中に感じた率直な意見を求めた。授業方法の改善や学内のコンビニエンスストアの商品についてなど、要望のあった内容について対応の可否の検討を行った。

(3) 第1学年入学時オリエンテーションの実施（一部 Web 開催）

COVID-19 感染予防対策の観点から、令和4（2022）年度も引き続きオンラインと対面を組み合わせたオリエンテーションを実施した。キャンパス内において新たに定められた感染予防対策の基本的なルール等について説明を行い、オンライン授業や感染予防に配慮した実習の受け方、クラス運営方針を指導した。また、安全な通学の仕方など日常の諸注意を行い、これからの学生生活への心構えを教授した。なお、対面でのオリエンテーションは密にならぬよう、人数を半数に組み分けて実施した。

(4) 東京短期大学・新潟短期大学交流事業

東京短期大学と合同研修を行い、両校の親睦を図ることを目的として実施してきた交流事業は COVID-19 の影響により中止となっている。令和5（2023）年度以降は、対面開催の再開を検討している。

(5) 多職種連携教育事業

新潟医療福祉大学が主催する連携教育推進委員会総合ゼミに専攻科生が参加した。看護学、理学療法学、作業療法学、リハビリテーション学、医学、薬学等を学ぶ多職種分野の学生たちと在宅介護・支援等についてのテーマに分かれて討議を行った。多職種連携の重要性を認識でき、そのスキルを身につけた。

(6) 感染予防対策

COVID-19 感染予防対策については感染予防対策のガイドラインを作成し、全学生に配布し周知徹底を行った。建物内および各教室の入り口に手指消毒用アルコールを設置するとともに学年別のゾーン管理、検温などを実施した。第3学年については国家試験対策のための学習室として2教室を準備し、使用する場合は事務室に申し出るなど、リスク管理を行った。

5. 研究活動

(1) 研究推進

令和4（2022）年度科学研究費助成事業（基盤研究 C）の採択状況は、新規が1件、継続が3件であった。一方、更なる競争的研究資金獲得をめざして学内研究のレベルアップを図った結果、令和5（2023）年度科学研究費助成事業（基盤研究 C）に9件の応募があり、そのうち1件が新規採択となった。科研費研究課題以外の研究も積極的に推進・遂行された。

(2) 研究倫理教育

令和4(2022)年度もCOVID-19感染防止の観点より全学的な対面方式の講習会は開催されなかったが、教職員へは研究活動における不正行為の注意喚起やメールでの情報共有を随時行った。新入教職員及び専攻科生への研究倫理教育に関しては、新潟生命歯学部で開催している「研究倫理入門セミナー(全5回)」に参加し、さらに日本学術振興会の研究倫理e-ラーニングコースを受講して徹底を図った。

(3) 研究成果の公表

COVID-19により多くの学会がWeb開催となったが、一部対面開催も再開され、積極的に研究成果の公表が行われた。また、査読ありの国際学術雑誌、日本口腔保健学雑誌、日本歯科衛生学会雑誌、日本歯科衛生教育学会雑誌等に原著論文が多数掲載された。専攻研究では専攻レポートを学位授与機構に提出する一方、毎年行われている歯科衛生研究会の第1部において専攻科生5人全員が発表を行った。一般口演の第2部では教職員による発表も行われた。

(4) 産学等連携研究活動

令和4(2022)年度の産学等連携研究活動状況は次のとおりである。

令和4(2022)年度新潟短期大学委託研究費一覧 (単位:円)

月 日	研究依頼者	金額	研究内容
令和4年 9月16日	デンタルプロ(株)	300,000	歯間ブラシの挿入感調査および挿入圧との関係研究～顎模型への挿入を介した適正サイズ条件の探索～

6. 専攻科

令和5(2023)年度は、歯科衛生学専攻に7人が入学した。本学卒業生以外の者は不在であった。

歯科衛生学専攻が学位授与機構認定の専攻科となってから12年目の令和4(2022)年度は、歯科衛生学専攻の6人が学位授与機構より学士(口腔保健学)の学位を認定された。この6人は所定の単位をすべて取得し、専攻科修了証書が授与された。このうちの1人は、令和3(2021)年度に在宅歯科医療学専攻に入学し、令和3(2021)年10月より歯科衛生学専攻に転科し、所定の単位を取得して令和4(2022)年9月に学士(口腔保健学)の認定を受けた。令和4(2022)年度以降、本学卒の専攻科進学希望者は、全員が学位授与機構認定の歯科衛生学専攻に入学することとなり、在宅歯科医療学専攻およびがん関連口腔ケア学専攻はリカレント教育を目的とする専攻科として継続することとなった。

今後も専攻科の周知を図るため、ホームページへの掲載の他、校友会や歯科衛生士会、歯科医師会を通じてパンフレット配布等を行い、本学在学中の学生だけではなく、既卒者への広報活動も積極的に行っていく。

7. 地域連携事業

(1) 「高等教育コンソーシアムにいがた」の加盟校として、新潟県内の高等教育機関と相互に連携・協力し、大学の教育・研究の質的向上と地域社会に貢献した。その活動の中心となるのは歯科系タスクフォース部会であり、例年であれば新潟県歯科医師会とも連携して、県内各地での「歯と口の健康週間」事業、県や市区町村が主催する健康イベント、歯科衛生士の職業紹介、進路相談会および健康講座等を開催する予定であったが、感染予防の観点から引き続きオンラインによる研修会参加や会議開催となった。

(2) 小学校での歯科保健指導を専攻科生とともに行った。COVID-19 が感染拡大している中での実施のため、口腔内での直接指導を伴わない口腔保健指導という形で実施した。令和4(2022)年度は下記の日程で歯みがき教室として講話を行った。なお、これら一連の活動は、ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)に掲げた社会貢献のできる歯科衛生士養成のためのものであり、学生に体験型学習を行わせるための工夫である。

- ①11月23日(水)新潟市立木山小学校1、2、3、4年生
- ②12月16日(金)新潟市立日和山小学校2、6年生
- ③2月17日(金)新潟市立日和山小学校1、4年生

8. 施設・設備

(1) 学内環境整備の一環として、3号館3階トイレ洗面台扉剥落部分の修繕を行った。

(2) COVID-19 感染対策の一環として、3号館の全ての教室にサーキュレータを設置した。